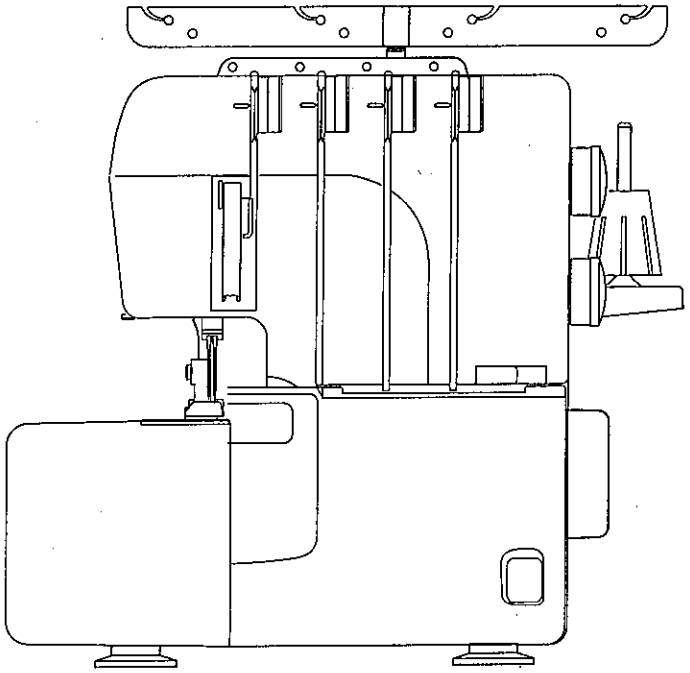
ご使用のしおり

《取扱説明書》



JANOME

安全上のご注意

◆ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
◆ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
◆お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。
◆このミシンは、日本国内向け家庭用です。　For use in Japan only.

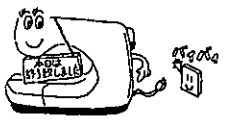
危害・損害の程度を表わす表示

⚠ **警告** この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。	⚠ **注意** この表示の欄は「傷害を負う可能性および物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

本文中の図記号の意味

⚠	△記号は、気を付けていただきたい「注意」の内容です。 図の中には具体的な注意内容を表示しています。（左図の場合は一般的な注意）
🚫	⃠記号は、行ってはいけない「禁止」の内容です。 図の中には具体的な禁止内容を表示しています。（左図の場合は分解禁止）
❗	●記号は、必ず実行していただく「強制」の内容です。 図の中には具体的な指示内容を表示しています。（左図の場合は一般的な強制）

⚠ 警告　感電・火災の恐れがあります。

❗ 必ず実行　一般家庭用、交流電源 100 Vでご使用ください。	必ずプラグを抜く　以下のような時は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 ・ミシンのそばを離れるとき ・ミシンを使用したあと ・ミシン使用中に停電したとき 

⚠ 注意　感電・火災・けがの原因となります。

分解禁止　お客様自身での分解はしないでください。	必ず実行　お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全に注意してください。
接触禁止　ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針・ルーパー・メス・はずみ車・天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。	必ず実行　以下のことをするときには、電源スイッチを切ってください。 ・押さえ、アタッチメントを交換するとき ・針糸、ルーパー糸をセットするとき
禁　止　ぬい中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。針が曲がり、針折れの原因になります。	必ず実行　電源プラグを抜くときは、コードを引っ張らず電源プラグを持って抜いてください。
禁　止　まがった針はご使用にならないでください。	必ずプラグを抜く　以下のことをするときには、電源スイッチを切って電源プラグを抜いてください。 ・針、針板、メスを交換するとき ・ランプを交換するとき（ランプが冷えてから行ってください。） ・ミシンのお手入れを行うとき
禁　止　フットコントローラーの上に物をのせないでください。	
禁　止　プラグ受けに糸くずや、ほこりがたまらないようにしてください。	必ずプラグを抜く　ミシンに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてお買い上げの販売店にて点検・修理・調整をお受けください。 ・正常に作動しないとき ・水に濡れたとき ・落下などにより破損したとき ・異常な臭い・音がするとき ・電源コード・プラグ類が破損、劣化したとき
禁　止　ミシンの操作時は、ルーパーカバー、布板などカバー類を閉じてください。	
必ず実行　針および押さえは、確実に固定してください。 また、押さえは、ぬいに合ったものをご使用ください。 針が押さえにあたり、けがの原因になります。	

目　次

●おとり扱いについてのお願い …… 2

準　備

●各部の名まえ …… 3
●ダストボックス …… 4
●物入れケース …… 4
●標準付属品 …… 4
●糸通し器(別売)の収納 …… 4
●電源のつなぎ方 …… 5
●速さの調節のし方 …… 5
◎はずみ車の回転方向 …… 6
●布板のあけ方、しめ方 …… 6
●ルーパーカバーのあけ方、しめ方 …… 6
●糸掛けスタンドの位置決め …… 7
●糸こま押さえ、糸こまネットのつけ方 …… 7
●針のとりかえ方 …… 8
●糸通し器(別売)の針保持具の使い方 …… 8
●押さえのあげ方、さげ方 …… 9
●押さえのはずし方、つけ方 …… 9
●押さえ圧の調節 …… 9
●ぬい目のあらさの調節 …… 10
●ぬい目の伸縮の調節 …… 10
◆布地が伸びてしまうときの直し方 …… 10
◆布地が縮んでしまうときの直し方 …… 10
●上メスの解除ともどし方 …… 11
◆解除のし方 …… 11
◆もどし方 …… 11
●切り幅の調節 …… 11
●ふちかがりぬいと巻きぬいの切り替え
(かがり爪位置の切り替え) …… 12
◆切り替え方 …… 12
●補助糸調子スライドつまみと
スライド糸案内の設定 …… 13
●２本針4本糸ふちかがりぬいの糸の通し方 14～23
◆下ルーパー糸の通し方 …… 16～17
◆ ウーリーナイロン糸の通し方 …… 17
◆上ルーパー糸の通し方 …… 18～19
◆右針糸の通し方 …… 20～21
◆糸通し器(別売)の使い方 …… 21
◆左針糸の通し方 …… 22～23
●１本針3本糸ふちかがりぬいの糸の通し方 …… 24
◆右針を使うとき …… 24
◆左針を使うとき …… 24
●2本糸ふちかがりぬいへの切り替え …… 25
◆スプレッダーのつけ方、はずし方 …… 25
◆補助糸調子スライドつまみ、および
スライド糸案内のセット …… 25
●2本糸ふちかがりぬいの糸の通し方 …… 26
◆右針を使うとき …… 26
◆左針を使うとき …… 26

ふちかがりぬい

●試しぬいをしましょう …… 27
◆ぬい始め …… 27
◆ぬい終わり …… 27
◆つづけてぬうとき …… 27
◆ガイドラインの使い方 …… 27
●ぬい始め、ぬい終わりの糸の始末 …… 28
●糸調子の出し方(2本針4本糸ふちかがりぬい) 29
◆正しい糸調子 …… 29
◆糸調子の調節のし方 …… 29～30
●糸調子の出し方(1本針3本糸ふちかがりぬい) 31
◆正しい糸調子 …… 31
◆糸調子の調節のし方 …… 31
●糸調子の出し方(1本針2本糸ふちかがりぬい) 32
◆正しい糸調子 …… 32
◆糸調子の調節のし方 …… 32
◆巻きぬい(1本針2本糸)の正しい糸調子 …… 32
●布に適した糸や針を選ぶ目安
(ふちかがりぬいと合わせかがりぬい) …… 33

応用ぬい

●１本針3本糸の巻きぬい、ピコぬい、細ロックぬい … 34
◆正しい糸調子 …… 35
◆糸調子の調節のし方 …… 35
◆巻きぬいとピコぬいの糸調子の調節 …… 35
●ふち飾りぬい …… 36
●ギャザーよせ …… 36
●ピンタック …… 37
●コーナー部の上手なぬい方 …… 38
◆外角のとき …… 38
◆内角のとき …… 38

ミシンの調整と手入れ

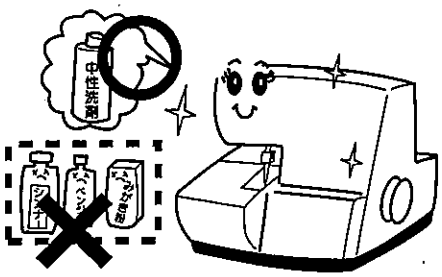
●切りくずの掃除 …… 39
●送り歯の掃除 …… 39
●電球のとりかえ方 …… 40
●注油のし方 …… 40
●ミシンの持ち運び方 …… 40
●別売付属品 …… 41
●調子がよくないときの直し方 …… 42

●おとり扱いについてのお願い

◇ご使用の前に

① ほこりや油などで、ぬう布を汚さないように、使う前に乾いたやわらかい布でよく拭いてください。

② シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使用しないでください。

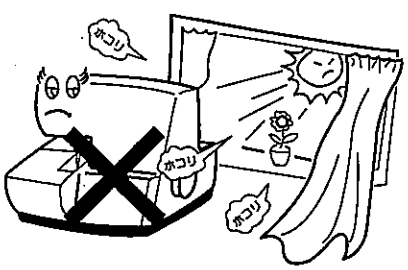


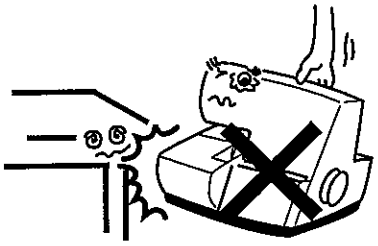
◇いつまでもご愛用いただくために…

①長時間日光に当てないでください。

②湿気やほこりの多いところは避けてください。

③落としたり、ぶつけるなどの衝撃を与えないでください。

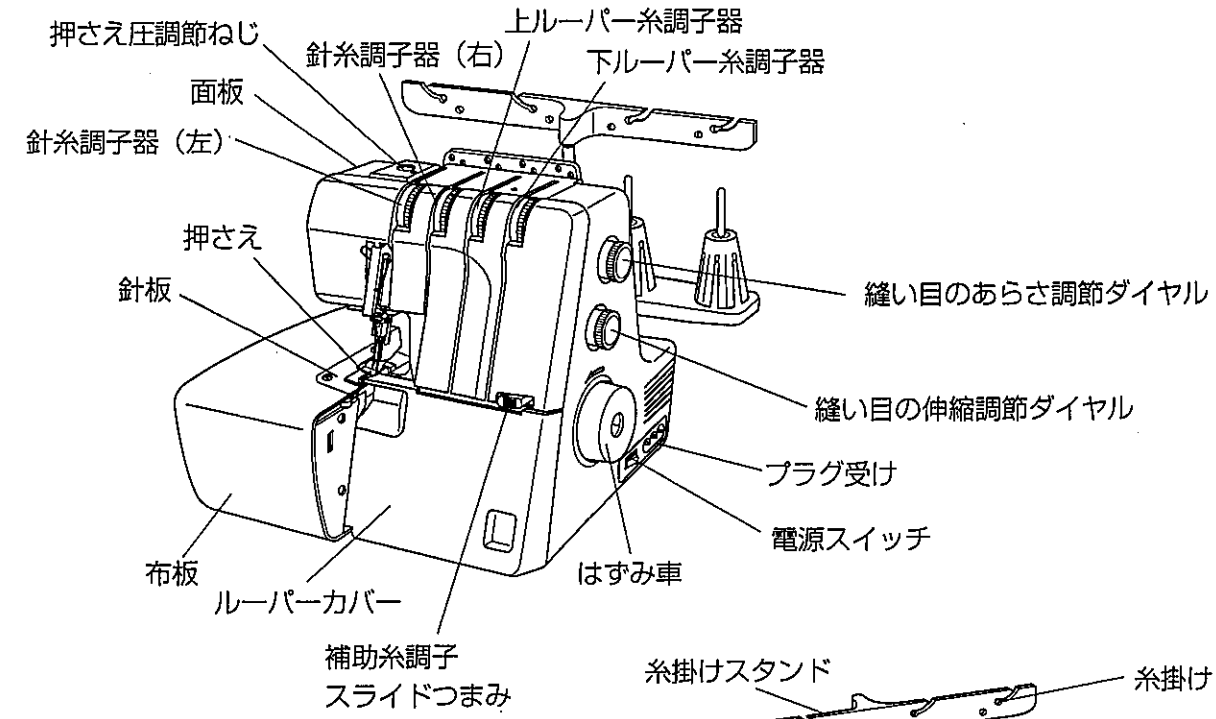


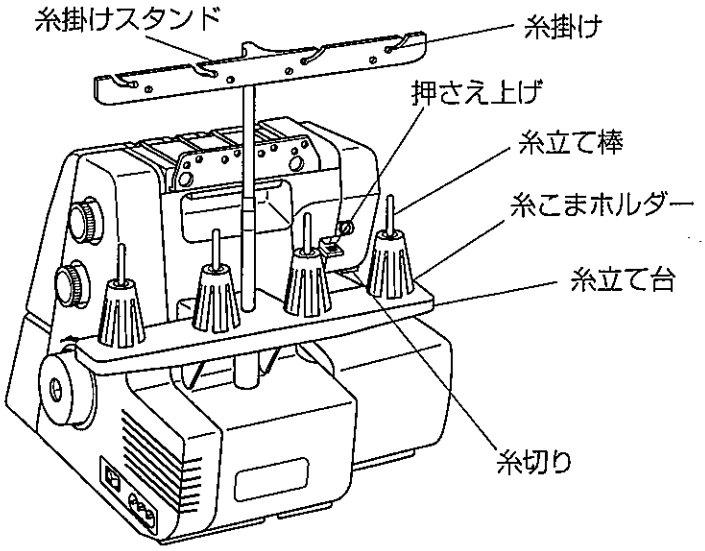


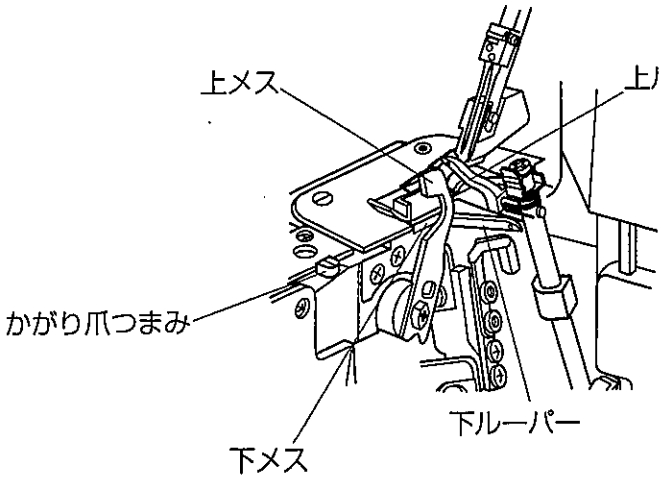
◇修理・調整についてのご案内

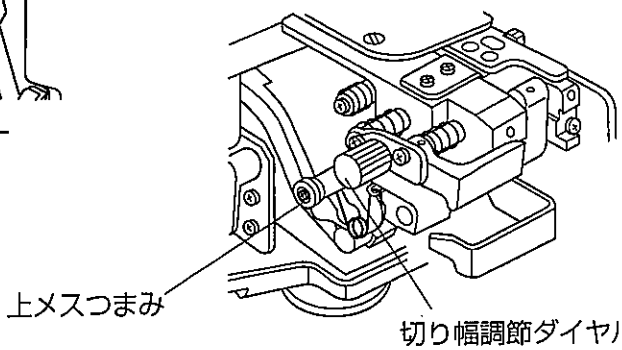
万一不調になったり、故障を生じたときは、「調子がよくないときの直し方」(42ページ)により点検・調整を行なってください。

● 各部の名まえ

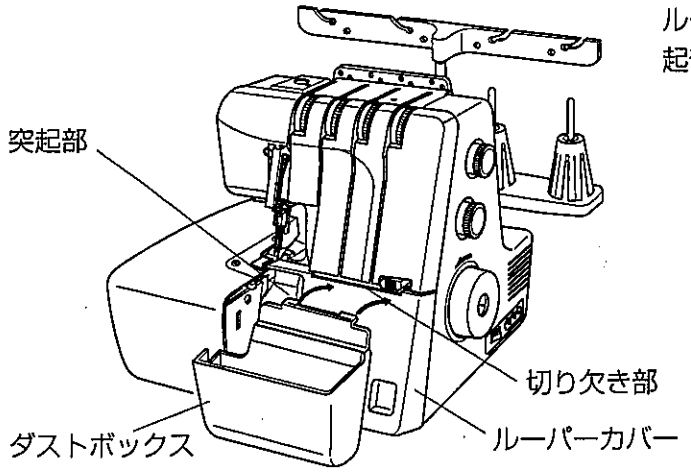

押さえ圧調節ねじ
針糸調子器（右）
上ルーパー糸調子器
下ルーパー糸調子器
面板
針糸調子器（左）
押さえ
針板
縫い目のあらさ調節ダイヤル
縫い目の伸縮調節ダイヤル
プラグ受け
電源スイッチ
布板
ルーパーカバー
はずみ車
補助糸調子
スライドつまみ


糸掛けスタンド
糸掛け
押さえ上げ
糸立て棒
糸こまホルダー
糸立て台
糸切り


上メス
上ルーパー
かがり爪つまみ
下ルーパー
下メス

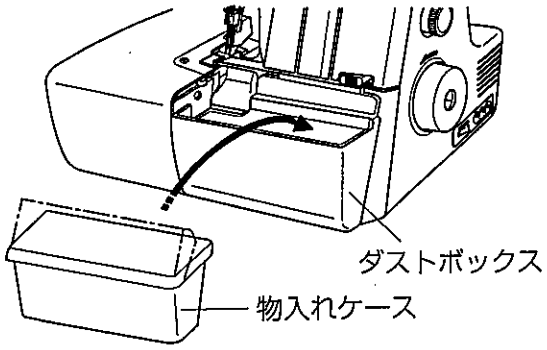

上メスつまみ
切り幅調節ダイヤル

● ダストボックス



ルーパーカバーの切り欠き部にダストボックスの突起部を差し込み、布くず受けとして使用します。

● 物入れケース



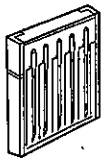
ミシンをお使いにならない時、物入れケースはダストボックスに収納できます。

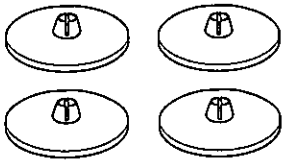
● 標準付属品

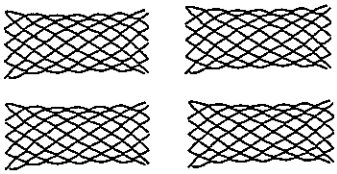
ドライバー(大)

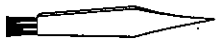
ドライバー(小)

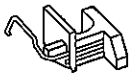
ピンセット


針ケース
HAx1SP11番,14番

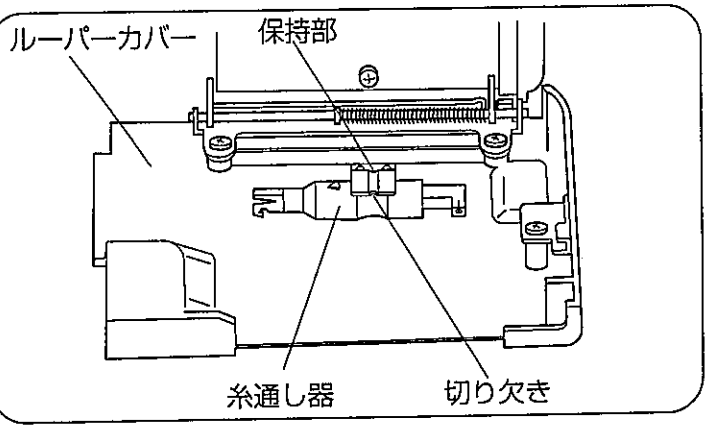

糸こま押さえ


糸こまネット


ブラシ

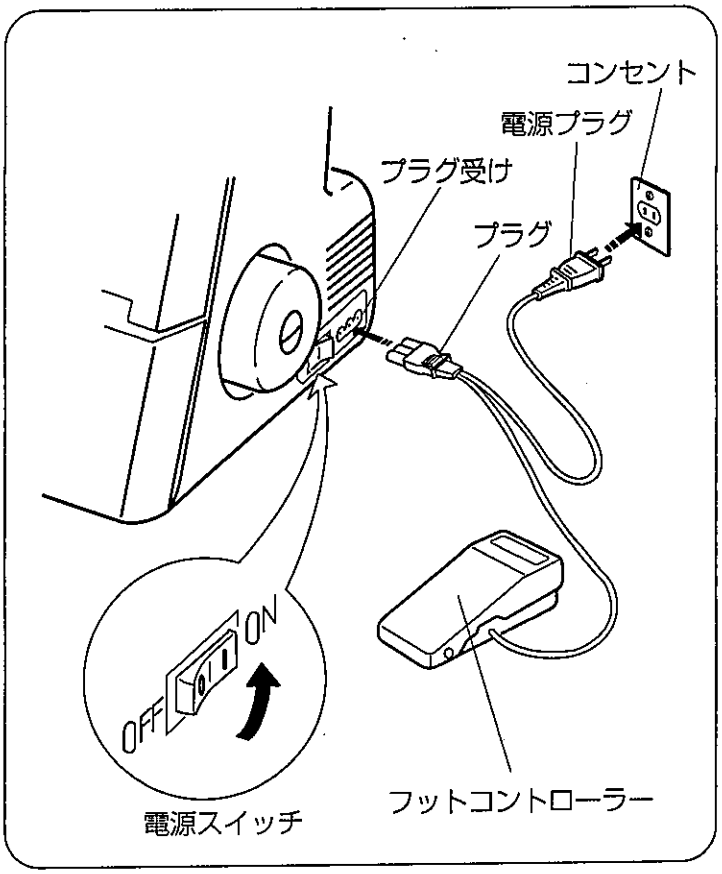

スプレッダー

● 糸通し器（別売）の収納



糸通し器は、ルーパーカバーの内側にある保持部に収納できます。
糸通し器をここに収納しておけば、使う時にすぐにとりだすことができて便利です。

●電源のつなぎ方



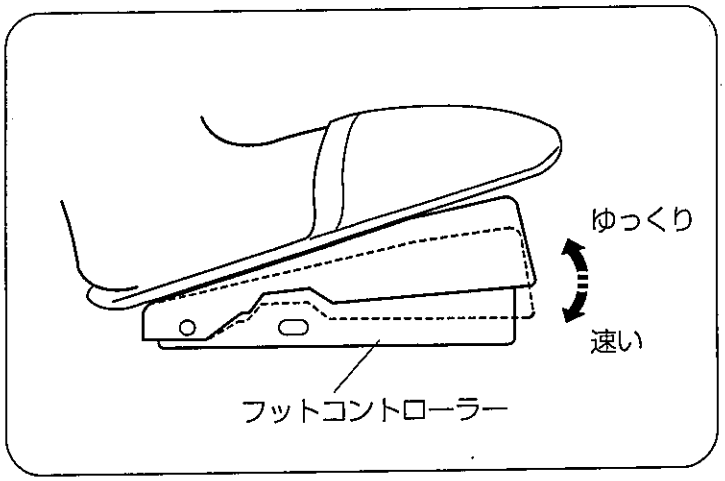
① 電源スイッチを「OFF」にして、プラグをプラグ受けにさしこみます。
② 電源プラグをコンセントにさしこみます。
③ スイッチを「ON」にします。

⚠ ミシンを使わないときは、必ず電源スイッチを切り、電 源プラグをコンセントから抜いてください。

⚠ 電源プラグ をコンセントから抜く時は、コードを引っ張らないでください。

⚠ 一般家庭用交流電源(100V50/60Hz)でご使用ください。

●速さの調節のし方

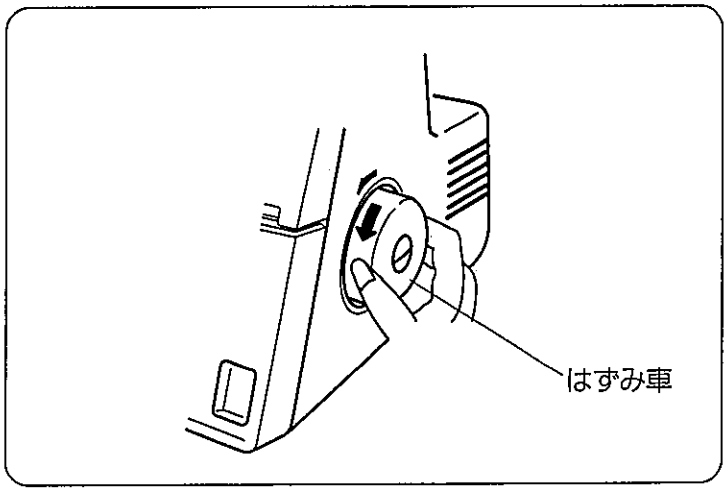


ミシンの速さは、フットコントローラーで調節します。

＊フットコントローラーは、深く踏み込むと速くなります。

⚠ フットコントローラーの上に、物を置かないでください。

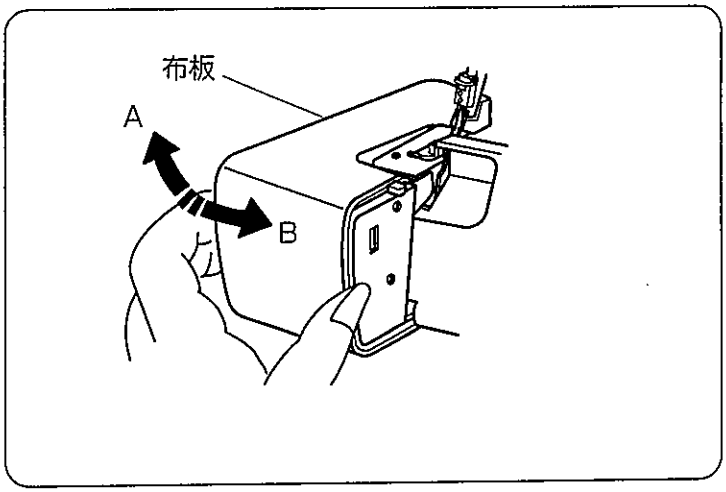
●はずみ車の回転方向



⚠電源スイッチを切ってください。

＊はずみ車は、手前にまわします。

●布板のあけ方、しめ方



⚠電源スイッチを切ってください。

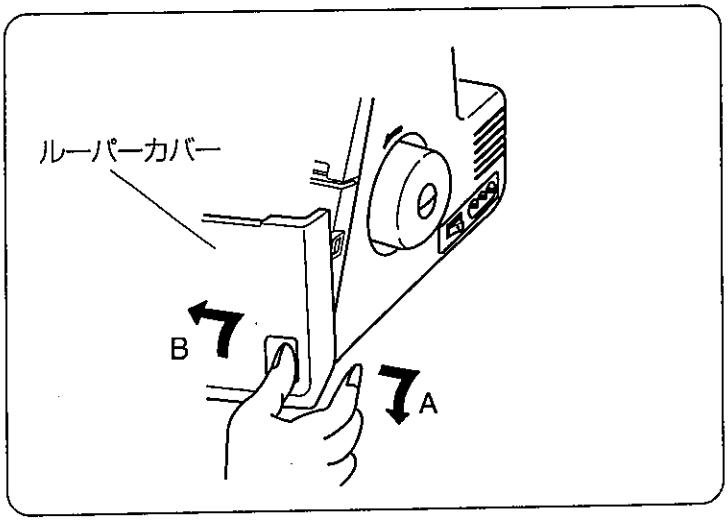
◆あけ方

左へ押してあけます。(A方向)

◆しめ方

右へ押してしめます。(B方向)

●ルーパーカバーのあけ方、しめ方



⚠電源スイッチを切ってください。

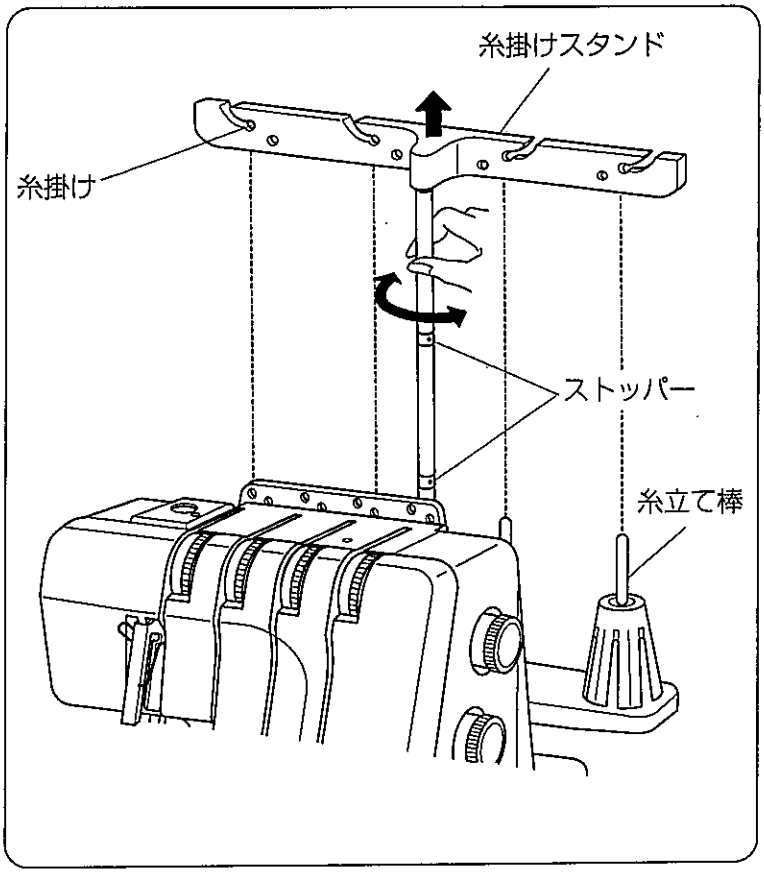
◆あけ方

右いっぱいに寄せながら、手前にひきます。
(A方向)

◆しめ方

もちあげて軽く押しつけます。(B方向)

●糸掛けスタンドの位置決め

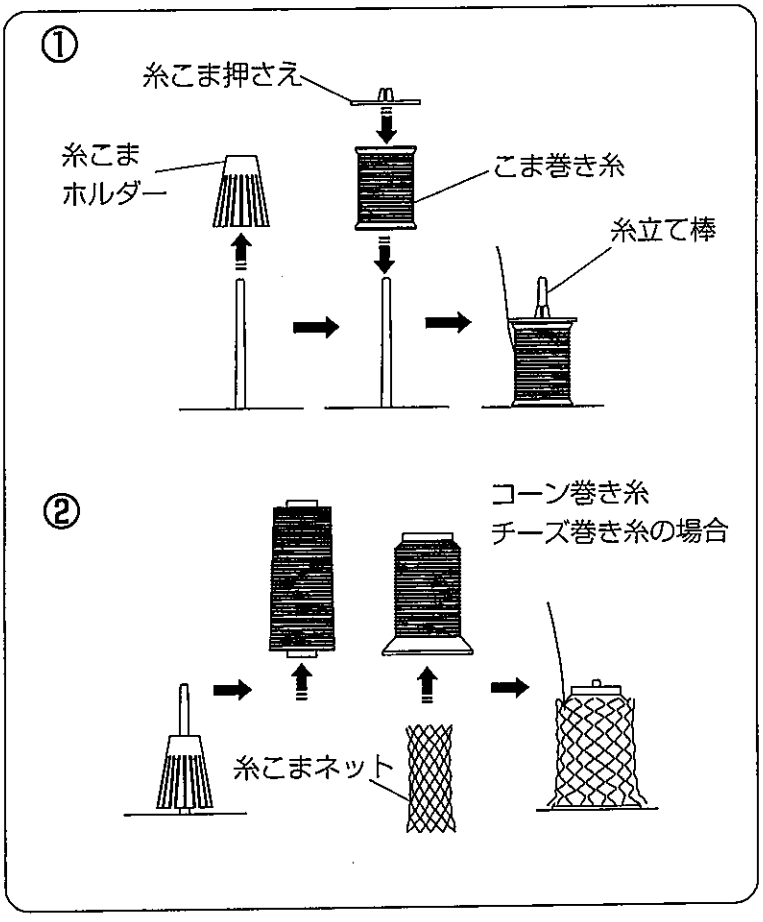


① 糸掛けスタンドをいっぱいに伸ばします。

② 糸掛けが糸立て棒の真上にくるように、糸掛けスタンドを回転させて、ストッパーで位置を決めます。

＊ストッパーは図のように2ヶ所ありますので、必ず2ヶ所ともきちんと位置を決めます。

●糸こま押さえ、糸こまネットのつけ方



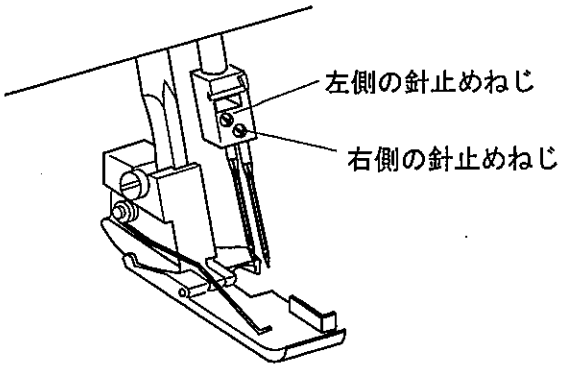
このミシンはこま巻き糸と、コーン巻き糸およびチーズ巻き糸が使用できます。

① こま巻き糸は、糸こまホルダーをはずして、糸こま押さえをはめてください。

② コーン巻き糸およびチーズ巻き糸は糸こまホルダーを使います。 特に化繊糸などの巻きがくずれやすい糸を使用するときは付属の糸こまネットを下の方からかぶせてご使用ください。

●針のとりかえ方

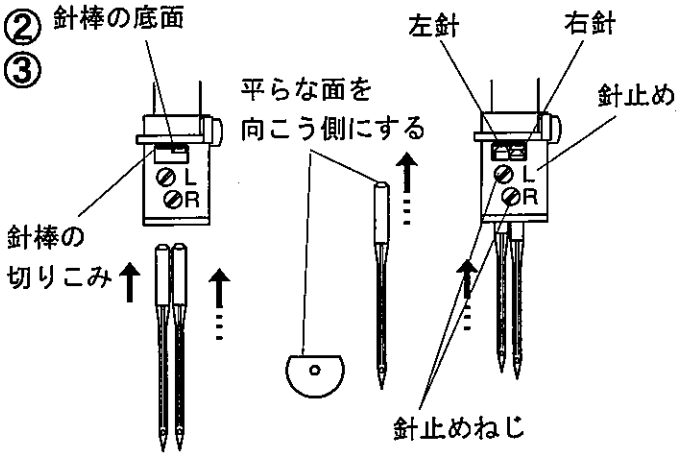
①



＊針はHA×1SPの14番または11番をお使いください。

⚠電源スイッチを切ってください。

① 針をはずすとき
針を上げ、とりかえようとしている針の針止めねじをゆるめて、針をはずします。

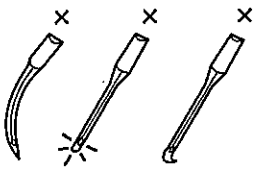


② 右側の針をつけるとき
針止めの右側の穴に、針の平らな面を向こう側に向けて、針棒の底面に突きあたるまでさしこみ、右側の針止めねじをかたくしめます。

③ 左側の針をつけるとき
針止めの左側の穴に、針の平らな面を向こう側に向けて、奥いっぱいに針棒の切りこみに突きあたるまでさしこみ、左側の針止めねじをかたくしめます。

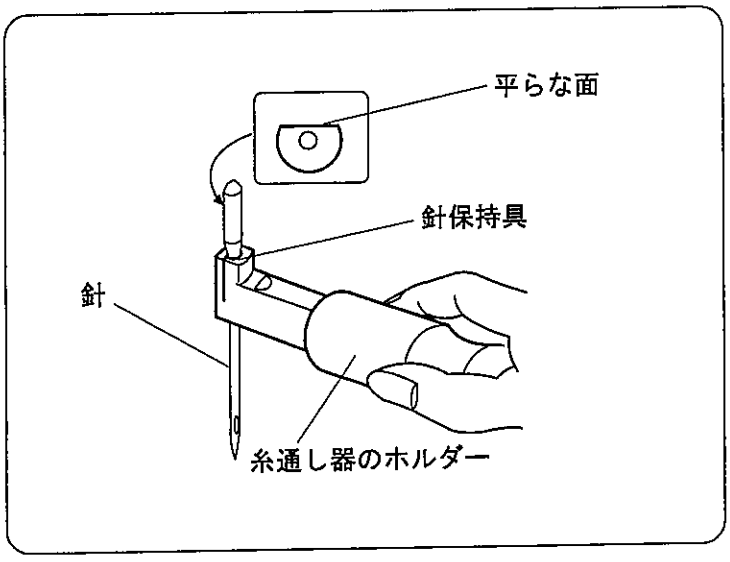
＊片方の針のみ使用するとき、使わない方の針止めねじは、はずれない様にかるくしめておきます。

＊針が正しくとりつけられていると、左図のように左側の針は、右側の針よりも少し上に上がった位置にあります。



⚠全体にまがった針や、針先のまがった針、つぶれた針は、使用しないでください。

●糸通し器（別売）の針保持具の使い方



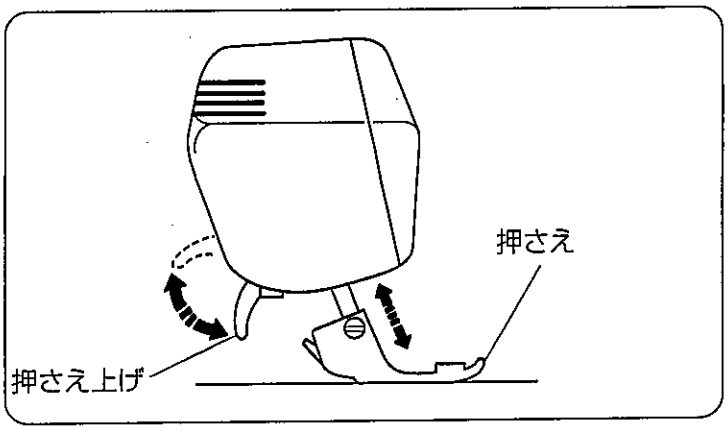
針をとりつけるときには、糸通し器の針保持具を利用すれば、かんたんにとりつけることができます。

⚠電源スイッチを切ってください。

① 針の平らな面を向こう側にして、糸通し器の針保持具の穴に針を差し込みます。

② そのままホルダーを持ってミシンの針止めに差し込み、針を固定します。

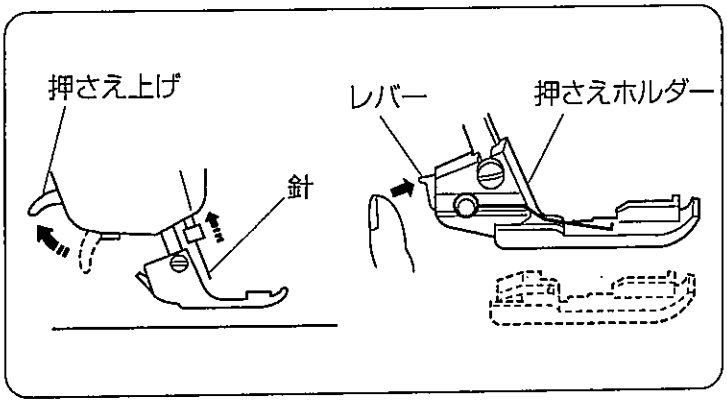
●押さえのあげ方、さげ方



押さえをあげさげするときは、押さえ上げを上下に動かします。

＊一般的に、糸を通しなおすとき以外は、押さえをさげたままにして使用します。

●押さえのはずし方、つけ方

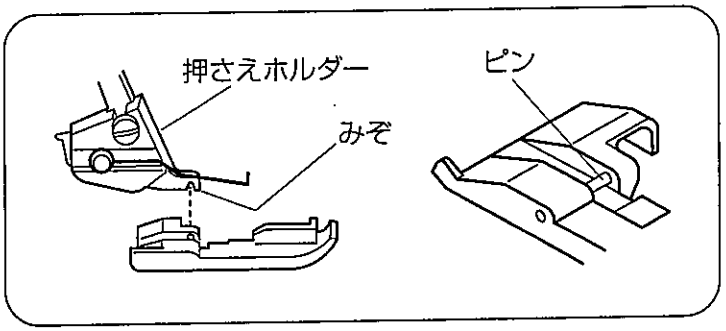


◆はずし方

⚠電源スイッチを切ってください。

針をあげ、押さえをあげます。

押さえホルダーのレバーを押して、押さえをはずします。



◆つけ方

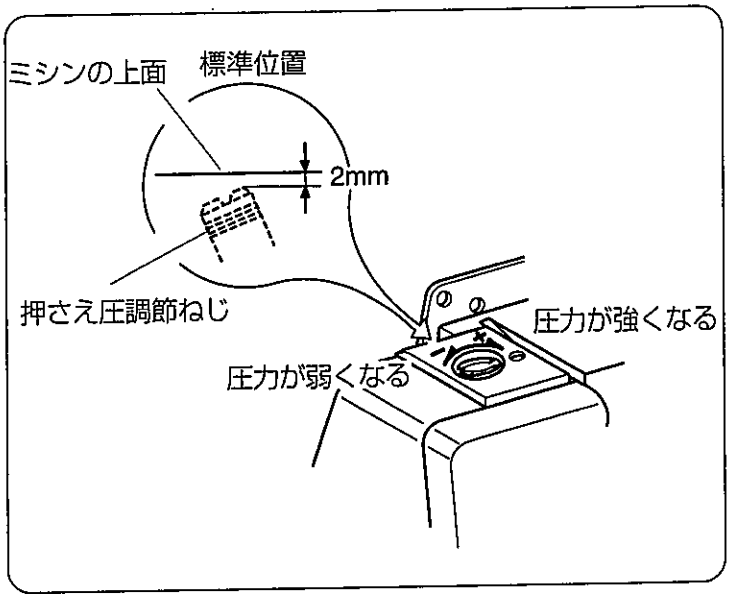
⚠電源スイッチを切ってください。

押さえのピンを押さえホルダーのみぞの真下において、押さえ上げを下げます。

＊押さえが入りにくい場合は、押さえ上げを下げたまま、レバーを押してください。

＊押さえ上げをあげ、押さえが確実についていることを確認してください。

●押さえ圧の調節



このミシンは、通常、押さえ圧を調節する必要ありませんが、極薄もの、極厚もののとき押さえ圧調節ねじで調節してください。

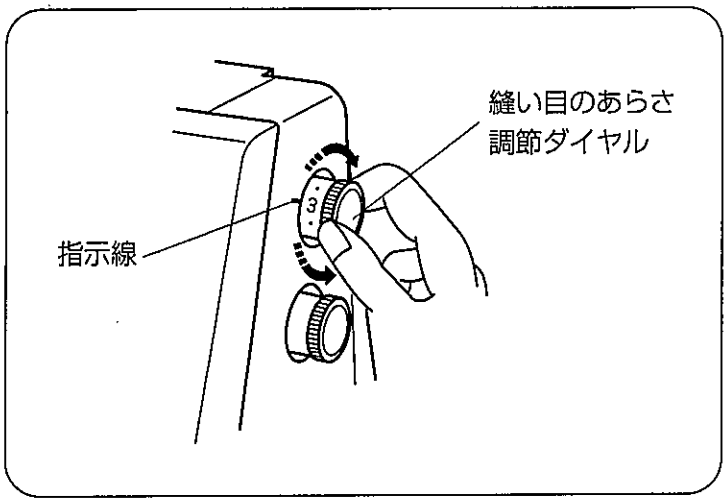
＊極薄もののときは、 押さえ上げを下げ、ドライバーで押さえ圧調節ねじを「－」方向にまわして、圧力を弱くします。

＊極厚もののときは、押さえ上げを下げ、ドライバーで押さえ圧調節ねじを「＋」方向にまわして、圧力を強くします。

ぬい終わったら、押さえ圧調節ねじは標準位置にもどしておいてください。

押さえ圧調節ねじの標準位置は、ミシンの上面からおよそ2mm位低い位置です。

●ぬい目のあらさの調節



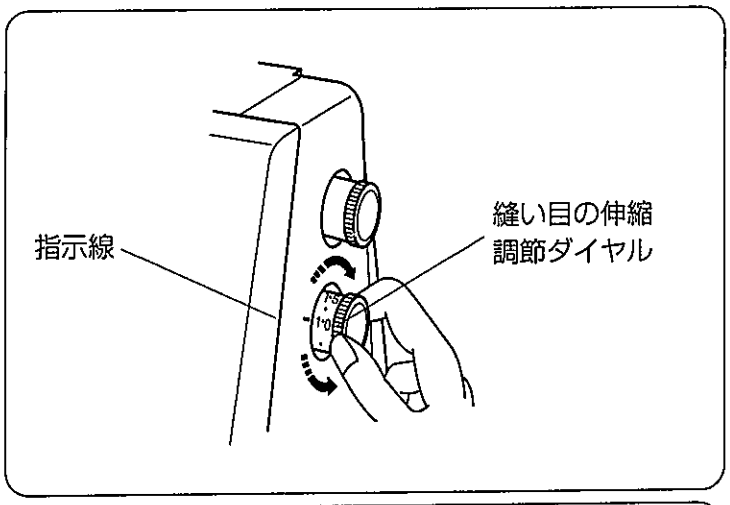
縫い目のあらさ調節ダイヤルで、ぬいの種類に応じたぬい目のあらさを選ぶことができます。縫い目のあらさ調節ダイヤルをまわして、目盛を指示線に合わせます。

＊ぬい目のあらさは、最小1mmから最大5mmまで調節できます。

＊目盛「R」は、巻きぬい又は細ロックぬいをするときのぬい目のあらさで、約1.5mmです。

＊ダイヤルをまわしてクリック感の大きい位置が標準の約3mmの位置です。

●ぬい目の伸縮の調節

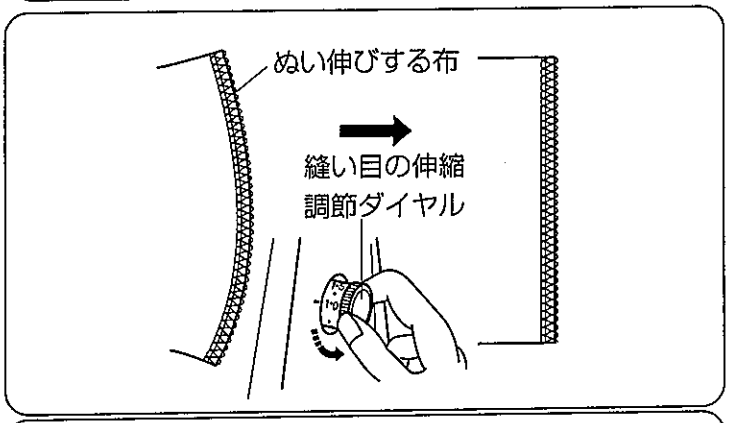


布のぬい伸び、ぬい縮みを直すときに使用します。

＊縫い目の伸縮目盛「1.0」は伸縮比1.0を表し、縫い目の伸縮のかかっていない状態です。(伸縮比は差動比とも呼ばれます。)

＊目盛が1.0より大きいと布を縮ませながらぬう状態になり、1.0より小さいと布を伸ばしながらぬう状態になります。

＊ダイヤルをまわしてクリック感の大きい位置が標準の1.0の位置です。



◆布地が伸びてしまうときの直し方

縫い目の伸縮調節ダイヤルを手前側へまわし「2.0」の方へ大きくするに従い、ぬい伸び防止の効果が高まります。

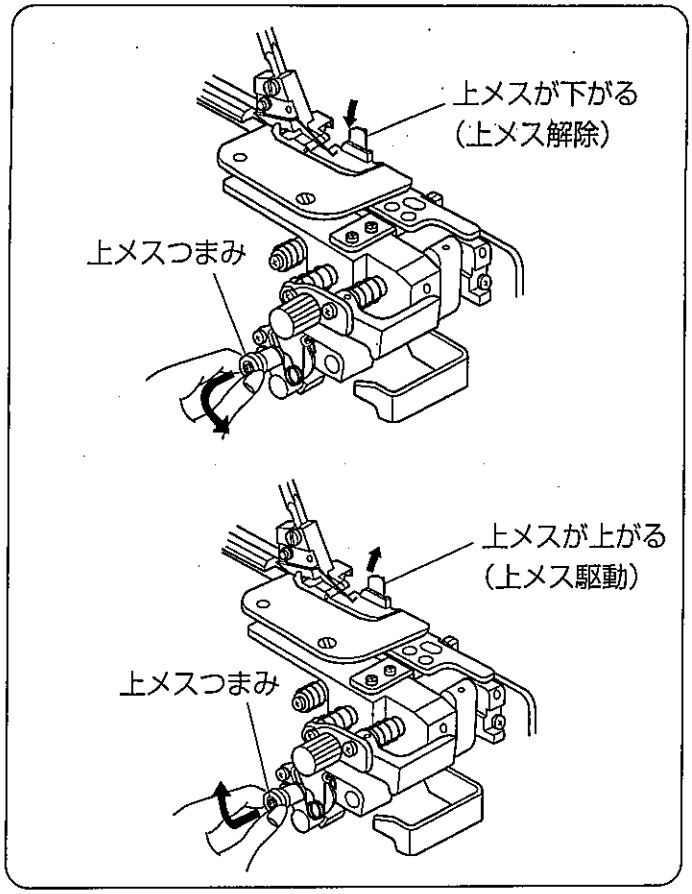
◆布地が縮んでしまうときの直し方

縫い目の伸縮調節ダイヤルを向こう側へまわし「0.5」の方へ小さくするに従い、ぬい縮み防止の効果が高まります。

＊縫い目のあらさ調節ダイヤルを4mmより大きくすると最大伸縮比は自動的に制限されます。

(ぬい目のあらさが5mmのときは最大伸縮比は、約1.8に制限されます。)

●上メスの解除ともどし方



上メスの駆動と解除を上メスつまみで切り替えられます。ぬい目の種類に合わせて切り替えてください。

⚠電源スイッチを切ってください。

◆解除のし方

①ルーパーカバーと布板をひらきます。

②上メスつまみを引きながら、案内みぞにそってストッパーに当たるまでさげます。

③はずみ車をまわして、上メスの解除を確認します。

④ルーパーカバーと布板をしめます。

◆もどし方

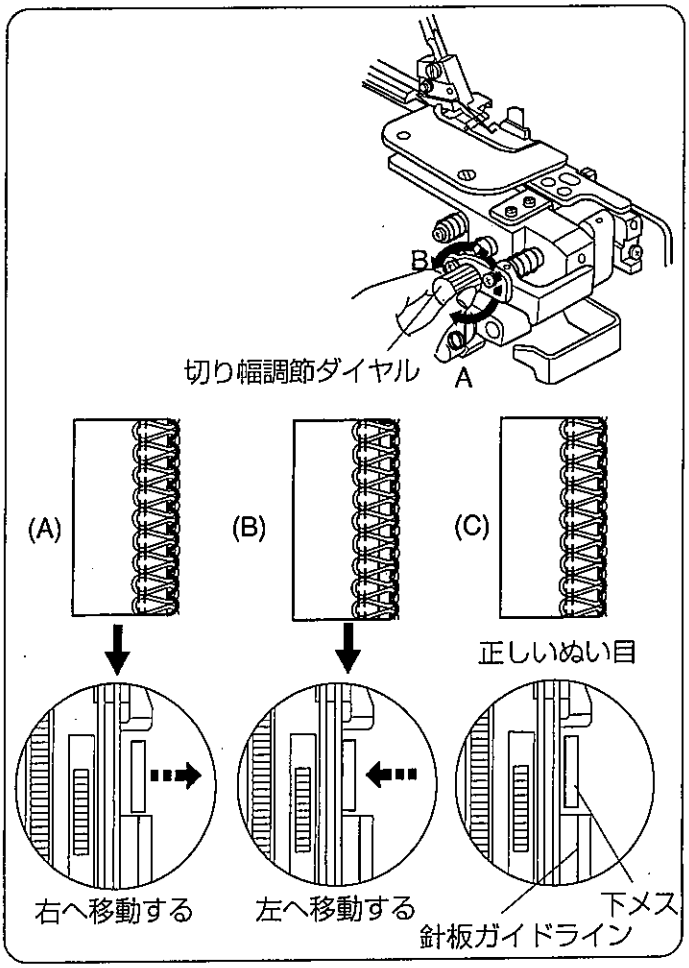
①ルーパーカバーと布板をひらきます。

②上メスつまみを引きながら、案内みぞにそってストッパーに当たるまであげます。

③はずみ車をまわして、上メスの動きを確認します。

④ルーパーカバーと布板をしめます。

●切り幅の調節



布ふちとぬい目が合っていないときは、切り幅を調節します。きれいにあわないときは糸調子を調節します。切り幅の調節は次のように操作します。

⚠電源スイッチを切ってください。

①ルーパーカバーと布板をひらきます。

②切り幅調節ダイヤルをまわして、布ふちとぬい目を合わせます。
A方向にまわすと切り幅が広くなります。
B方向にまわすと切り幅が狭くなります。

③ルーパーカバーと布板をしめます。

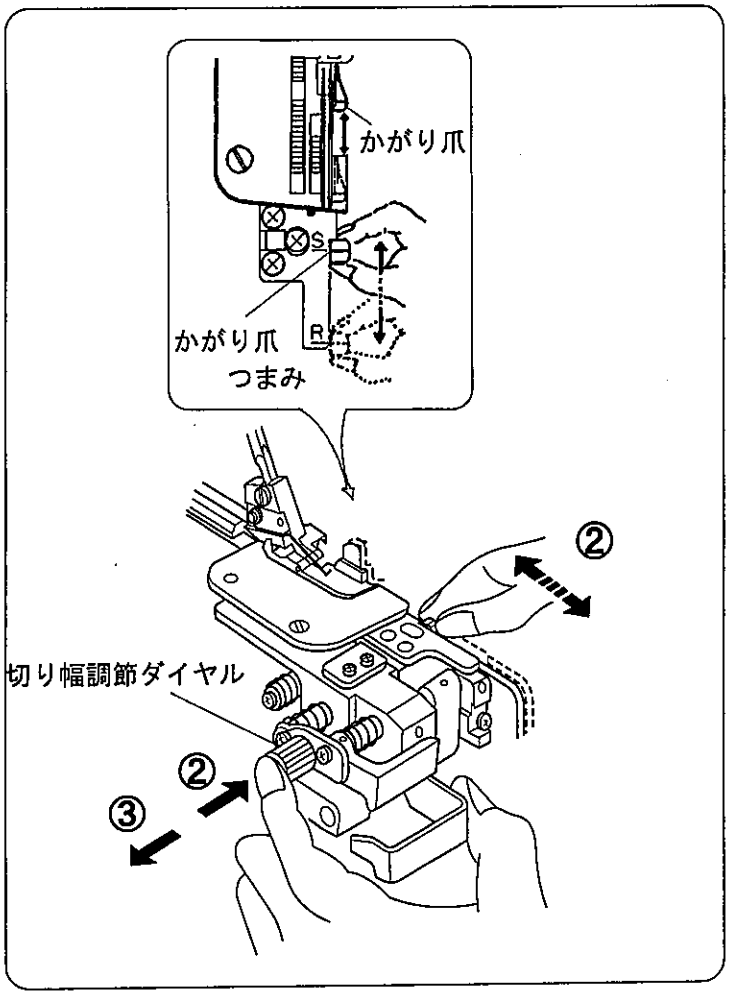
④試しぬいをして、切り幅を確認します。

＊このミシンは、右針から約3mmから5mm幅まで切り幅を調節できますが、使用する布に合わせて調節してください。

＊下メスの標準位置は、下メスの右側面と針板のガイドラインが一致する位置です。

(A)布ふちがぬい目にとどかない。
(B)布ふちが余りすぎてシワになる。
(C)布ふちとぬい目が合っている。

●ふちかがりぬいと巻きぬいの切り替え(かがり爪位置の切り替え)



かがり爪位置はSとRがあり、ぬい目の種類に合わせて切り替えます。

◆切り替え方

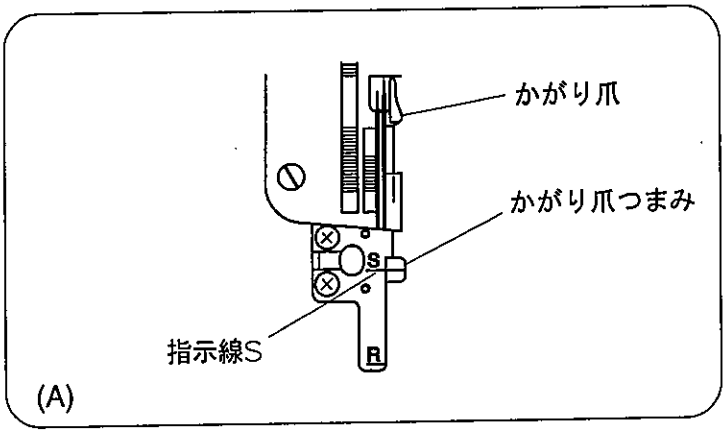
⚠電源スイッチを切ってください。

① ルーパーカバーと布板をひらきます。

② 切り幅調節ダイヤルを右いっぱいに押しながら、かがり爪つまみをS側またはR側へ移動します。

③ 切り幅調節ダイヤルは手をそっとはなせば、元にもどります。

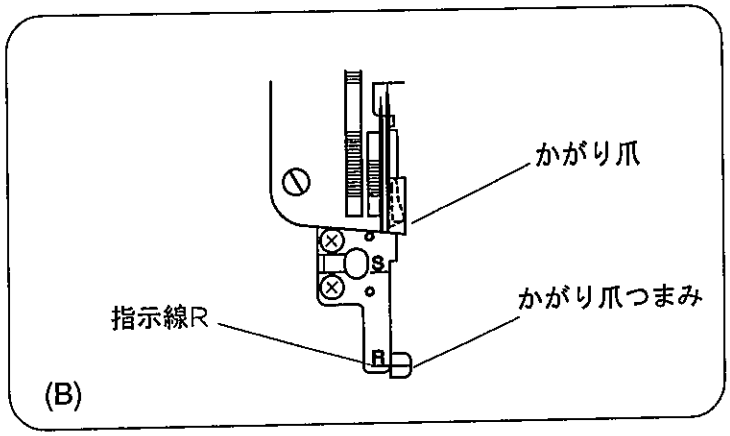
④ ルーパーカバーと布板をしめます。



＊かがり爪つまみ位置

(A)普通のふちかがりぬいの場合
かがり爪つまみ位置:S側

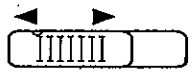
普通のふちかがりぬいでは布ふちでかがり糸を支えるため、(A)のようにかがり爪を針板の側面に位置させます。



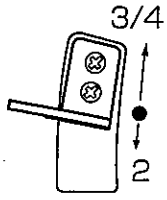
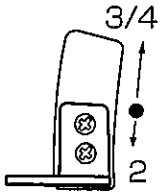
(B)巻きぬい(ピコぬい、細ロックぬい)の場合
かがり爪つまみ位置:R側

巻きぬい、ピコぬい、細ロックぬいでは布ふちをまきこみますから、かがり爪は不要となり、(B)のように針板の下側に引き込んでおきます。

●補助糸調子スライドつまみとスライド糸案内の設定

補助糸調子スライドつまみ	
〈普通のふちかがりぬい〉	〈巻きぬい〉
標準　巻き縫い 	標準　巻き縫い

＊2本、3本、4本糸のぬいすべてに適用します。

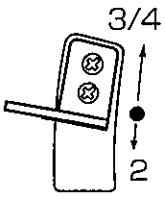
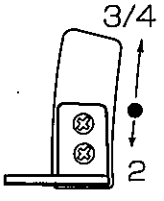
スライド糸案内	
〈3本または4本糸でのぬい〉	〈2本糸でのぬい〉
	

＊スライド糸案内は、ルーパーカバーをあけると正面にあります。(14ページ参照)
3本又は4本糸のぬいと、2本糸のぬいによって必ず切り替えてください。

＊ 注意 ＊

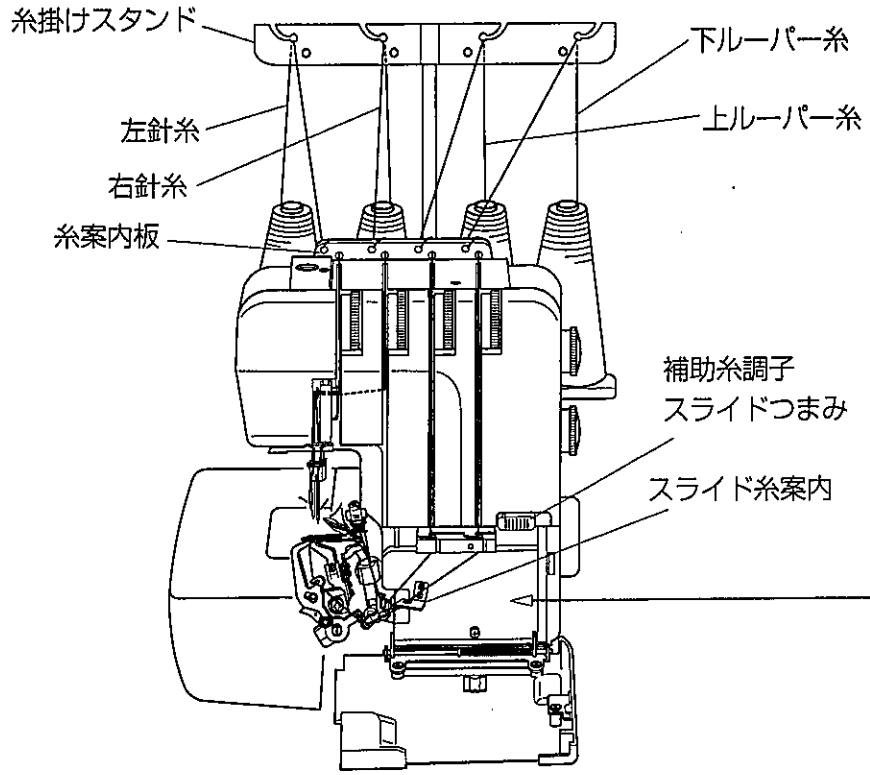
3本または4本糸ぬいと2本糸ぬいでは、必ず「スライド糸案内」を切り替えてください。
「スライド糸案内」を正しく切り替えていないと、「補助糸調子スライドつまみ」をぬいに合わせてセットしても適正な糸調子が得られず、正しいぬい目になりません。

※「補助糸調子スライドつまみ」と「スライド糸案内」の設定組み合わせによって、下ルーパー糸調子圧は次の表のように設定されます。

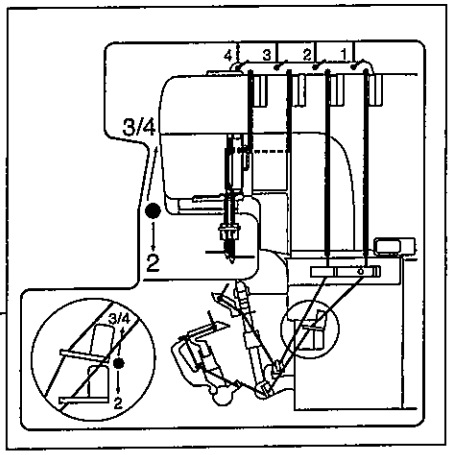
補助糸調子スライドつまみ ＼ スライド糸案内	＜普通のふちかがりぬい＞	＜巻きぬい＞
	標準　巻き縫い	標準　巻き縫い
〈3本または4本糸でのぬい〉 	下ルーパー糸調子圧 変化なし	下ルーパー糸調子圧 強くなる
〈2本糸でのぬい〉 	下ルーパー糸調子圧 強くなる	下ルーパー糸調子圧 変化なし

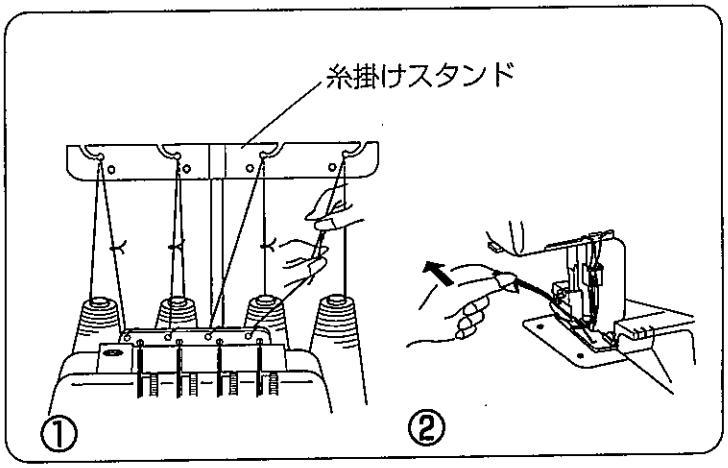
●２本針４本糸ふちかがりぬいの糸の通し方

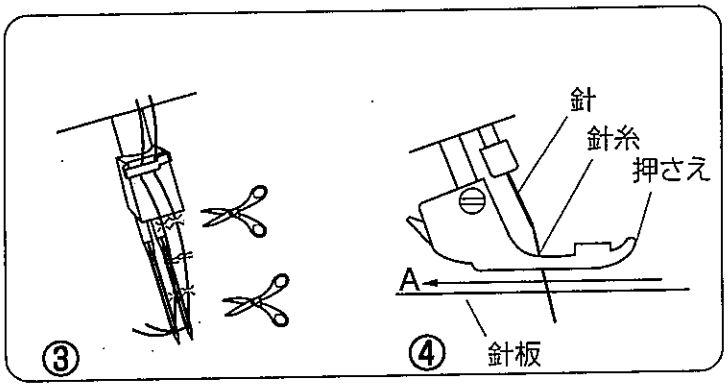
左の図は４本の糸を通し終わった状態です。



糸道案内図







ミシンには、あらかじめ糸がセットしてあります。ご使用になる糸に交換するときは、次のようにすると、容易に糸が通せます。

⚠ 電源スイッチを切ってください。

① 糸こまから引き出した糸を糸掛けスタンドの糸掛けに通してから糸をつないでください。

② 押さえ上げをあげ、結び目を押さえの下から向こう側へ出るまで引き出します。

③ ただし、針糸を引き出すときは、結び目を針穴の手前で止め、結び目を切ってから針穴に通します。

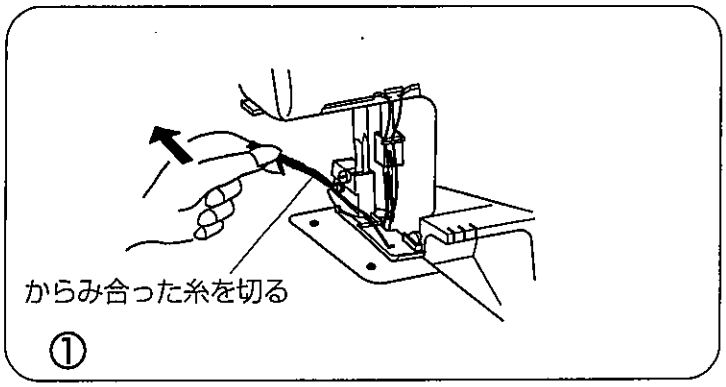
④ ぬい始める前に、押さえの下で針糸をA方向に引き出し、押さえの後ろへ１０cmほど各糸を引き出します。

押さえをおろして糸通しは終了です。

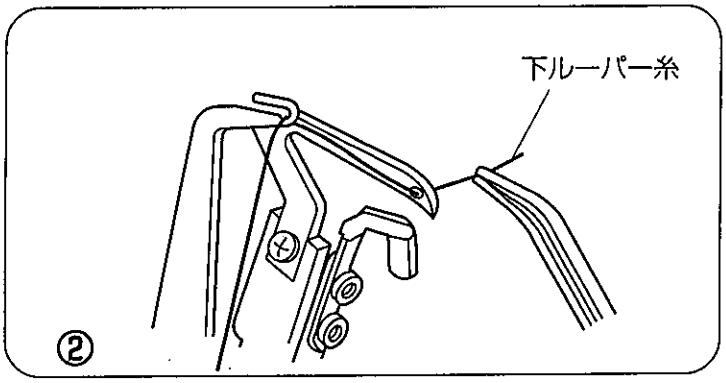
●新たに糸を通すときは、下ルーパー糸、上ルーパー糸、針糸の順に通します。
通した各糸は、後ろへ１０cmほど引き出しておけば糸通しは終了です。

● 糸が１本だけ切れて通し直すときは次のようにします。

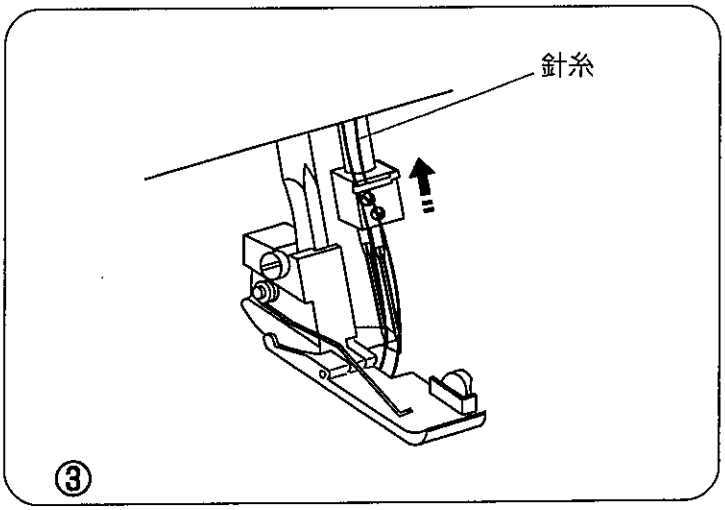
⚠ 電源スイッチを切ってください。



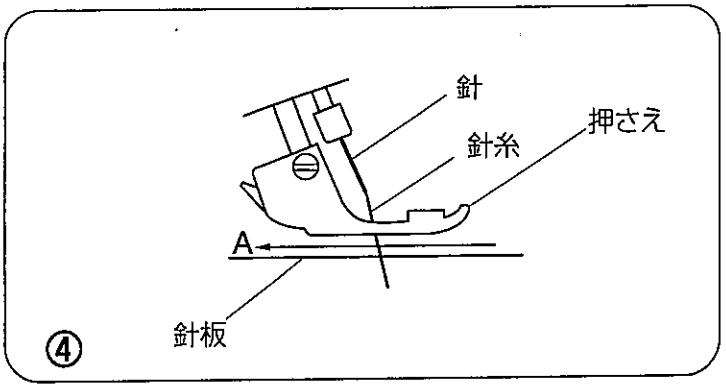
①切れてない残りのからみ合った糸を押さえの後ろまで引き出して切り、糸どうしがからまっていない状態にします。



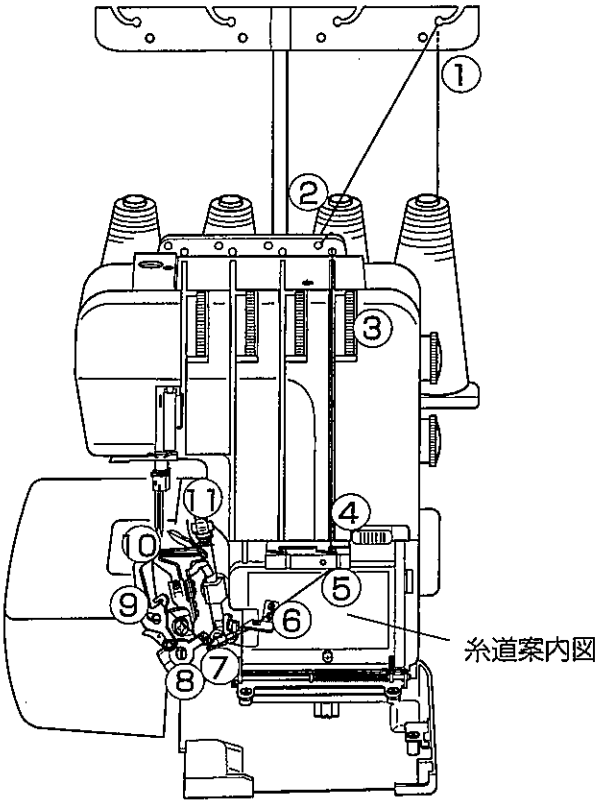
②切れた糸を通し直します。
（たとえば、下ルーパー糸を通し直します。）



③はずみ車を手前にまわし、針を上いっぱいまであげます。



④最後に押さえの下で針糸をA方向に引き出し、針糸が針板の下にないことを確認してから押さえの後ろへ１０cmほど各糸を引き出しておけば糸通しは終了です。



糸道案内図

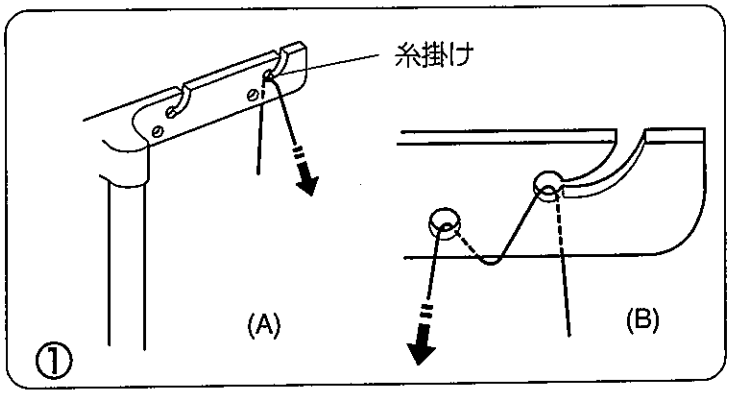
◆ 下ルーパー糸の通し方

＊緑色マークの糸道を通してください。

＊ルーパーカバーをひらきます。

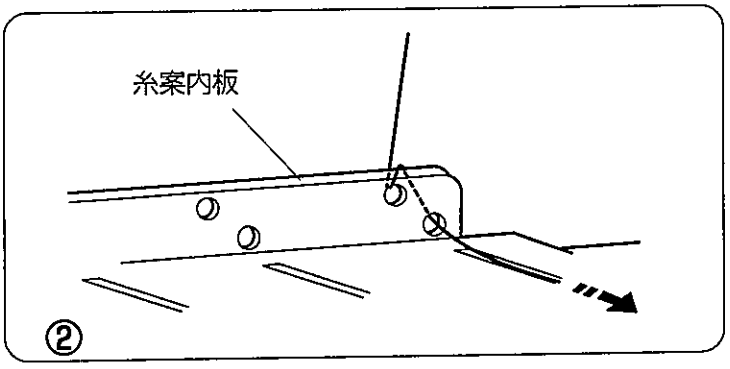
＊糸道案内図は、ルーパーカバーをあけると左図の位置にあります。

⚠電源スイッチを切ってください。

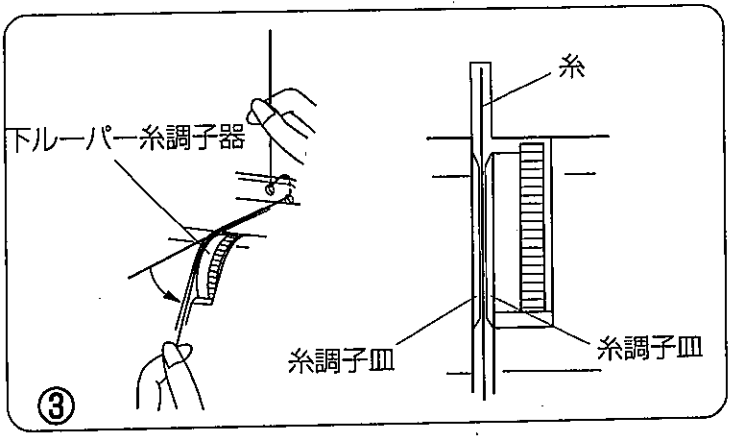


①糸こまから引き出した糸を、右側の糸掛けに掛けます。

＊通常は(A)のように糸を掛けますが、糸掛けから外れやすい糸は(B)のように穴にもう一度通します。



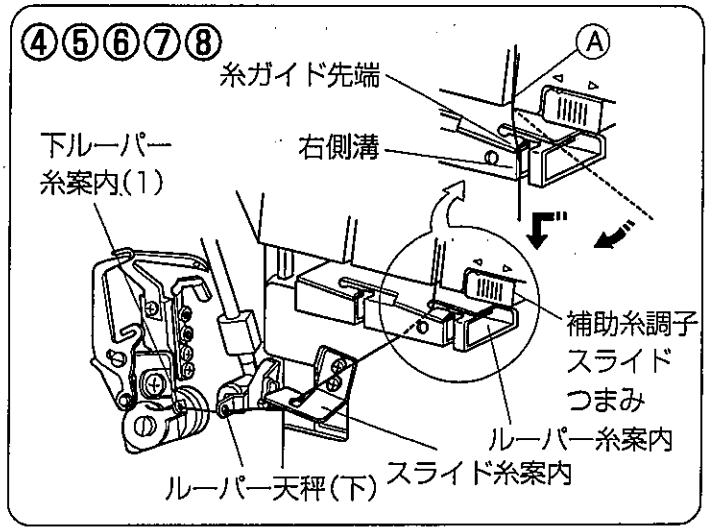
②糸を糸案内板の一番右側の2つの穴に通します。



③溝にそって糸を引き、下ルーパー糸調子器に糸を通します。

＊押さえ上げを上げると糸調子皿が開放され、糸が入りやすくなります。

＊糸の両端をもって軽くしごき、糸が確実に糸調子皿2枚の間に入っていることを確かめてください。



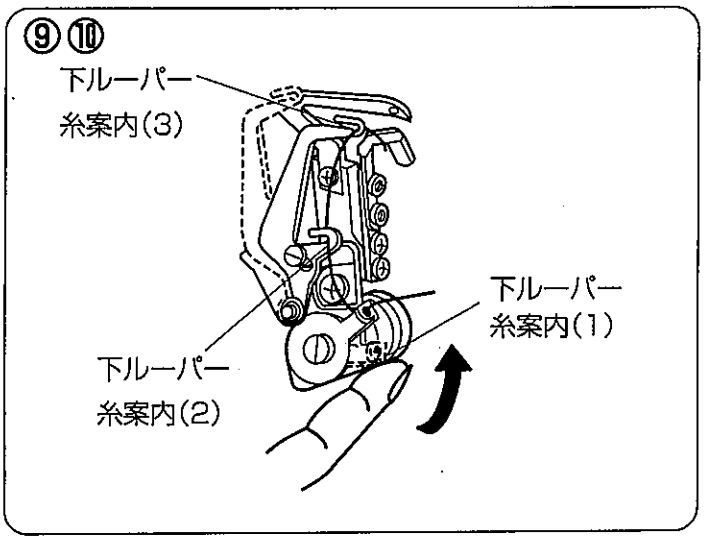
④⑤糸を正面カバーの角部Ⓐ、糸ガイド先端の順に案内し、ルーパー糸案内の右側溝に通します。

⑥スライド糸案内に糸を通します。

⑦ルーパー天秤(下)に糸を通します。

⑧下ルーパー糸案内(1)に糸を通します。

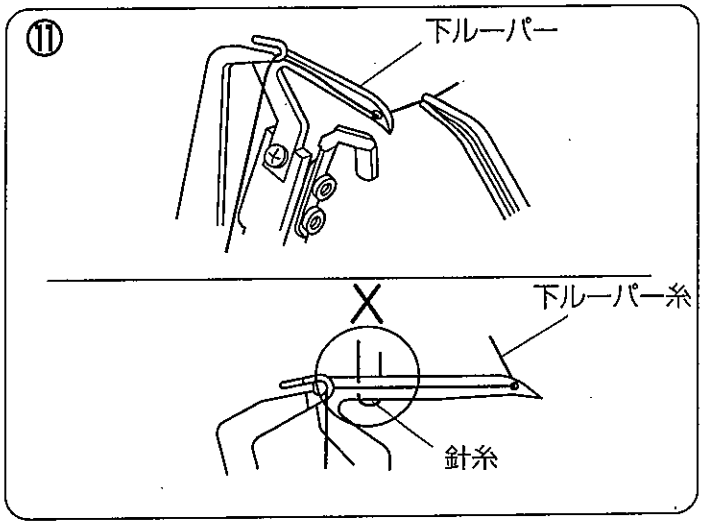
＊下ルーパー糸通しをするときは、補助糸調子スライドつまみを"標準"側に、スライド糸案内を"3/4"本糸側にあわせておきます。



⑨はずみ車を回して下ルーパーを最右点にして下ルーパー糸案内(1)を持ち上げると、下ルーパー糸案内(2)、(3)が、上方に現われます。

⑩下ルーパー糸案内(2)、(3)に糸を掛けます。糸の先端を持って、下ルーパー糸案内(1)を指で 押し下げると下ルーパー糸案内(2)、(3)は、元の位置に戻ります。

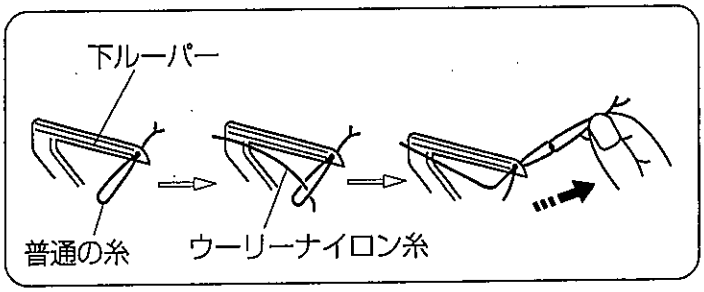
＊下ルーパー糸案内(1)をもどしわすれても、はずみ車を手前にまわすと、下ルーパー糸案内(1)、(2)、(3)は自動的に元の位置にもどります。



⑪ はずみ車を回して、再び下ルーパーを最右点にします。下ルーパー糸穴に糸を通し、糸端は、糸穴から10cmほど引き出しておきます。

＊このとき、先に針糸が通っていて下ルーパーが針糸ループを捕捉した状態で下ルーパー糸を通すと、針糸が下ルーパーから抜けられないので正しく ぬえません。針糸を下ルーパーからはずして、下ルーパー糸を通してください。

＊糸を通し終わったら、ルーパーカバーをしめます。



◆ウーリーナイロン糸の通し方

下ルーパーの穴に通しにくいウーリーナイロン糸は、左図の方法で通します。

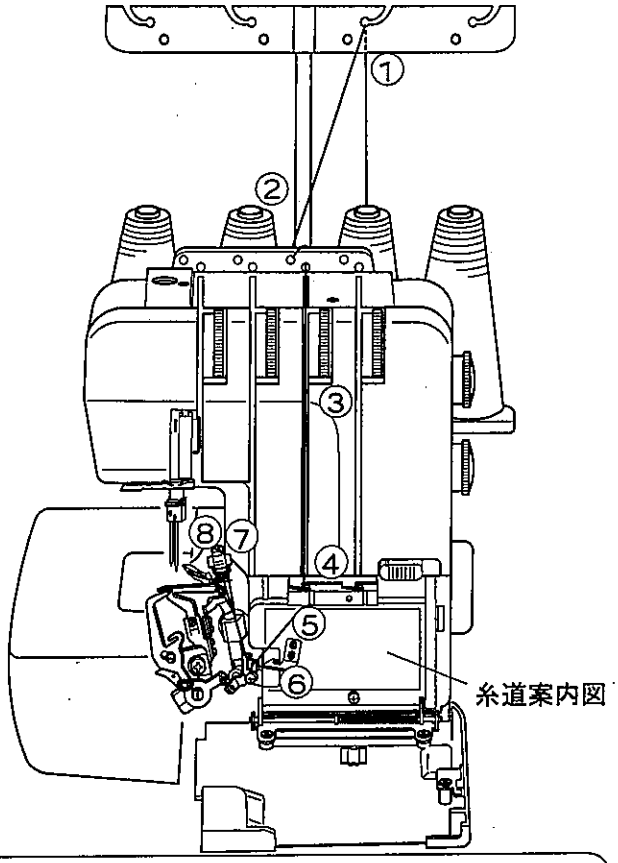
＊上ルーパーの場合にも、同じ方法で糸通しをしてください。

◆上ルーパー糸の通し方

＊ピンク色マークの糸道を通してください。

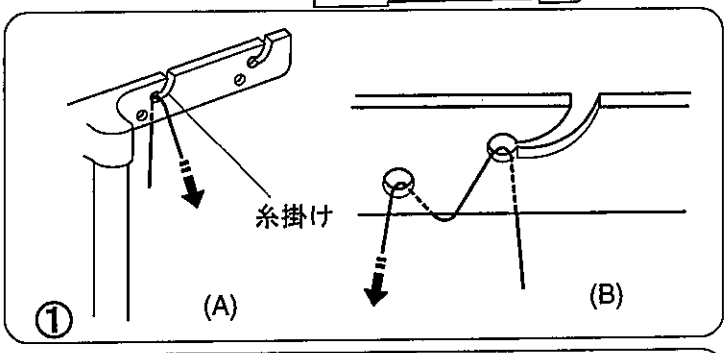
＊ルーパーカバーをひらきます。

＊糸道案内図は、ルーパーカバーをあけると 左図の位置にあります。



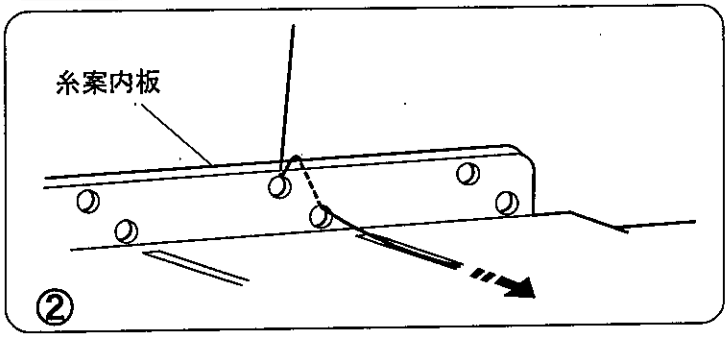
⚠ 電源スイッチを切ってください。

①糸こまから引き出した糸を、右から2番目の糸掛けに掛けます。



＊通常は(A)のように糸を掛けますが、糸掛けから外れやすい糸は(B)のように穴にもう一度通します。

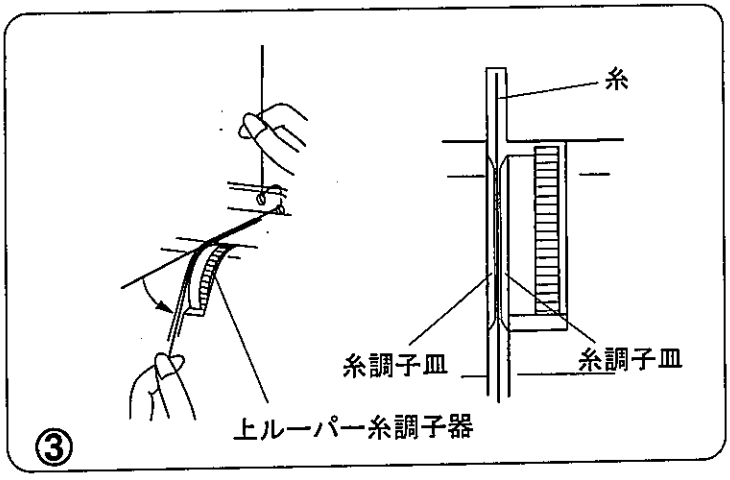
②糸を糸案内板の右から2番目の2つの穴に通します。

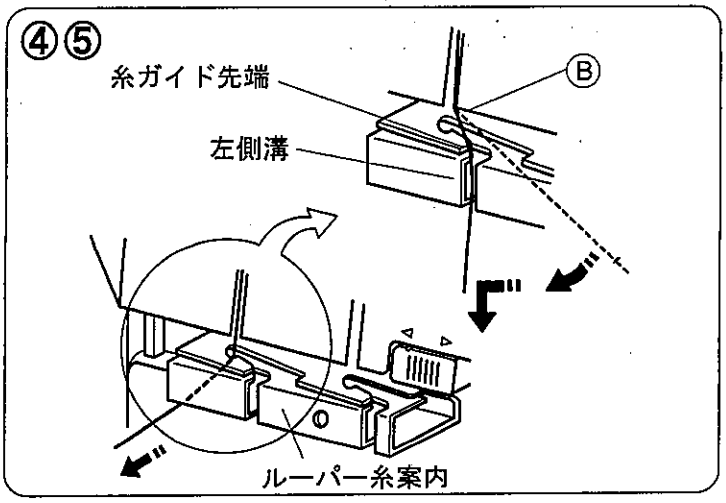


③溝にそって糸を引き、上ルーパー糸調子器に糸を通します。

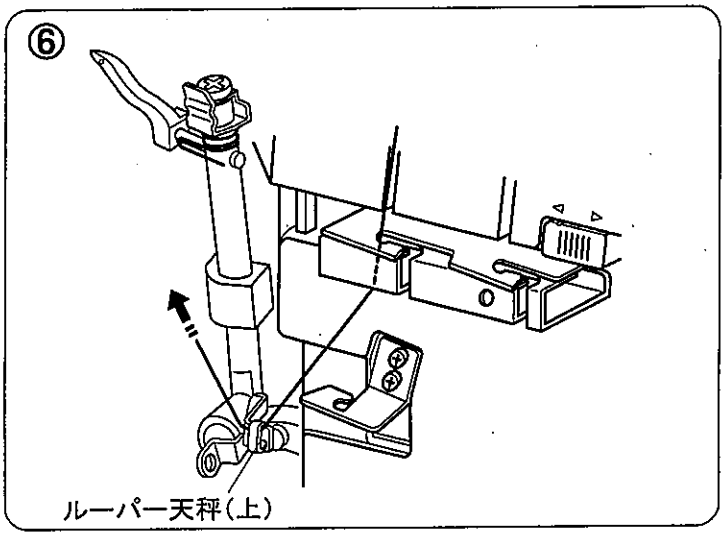
＊押さえ上げを上げると糸調子皿が開放され、糸が入りやすくなります。

＊糸の両端をもって軽くしごき、糸が確実に糸調子皿2枚の間に入っていることを確かめてください。

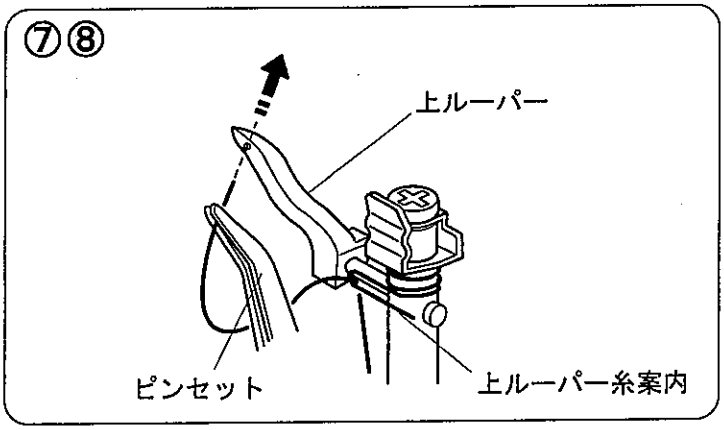




④⑤糸を正面カバーの角部Ⓑ、糸ガイド先端の順に案内し、ルーパー糸案内の左側溝に通します。



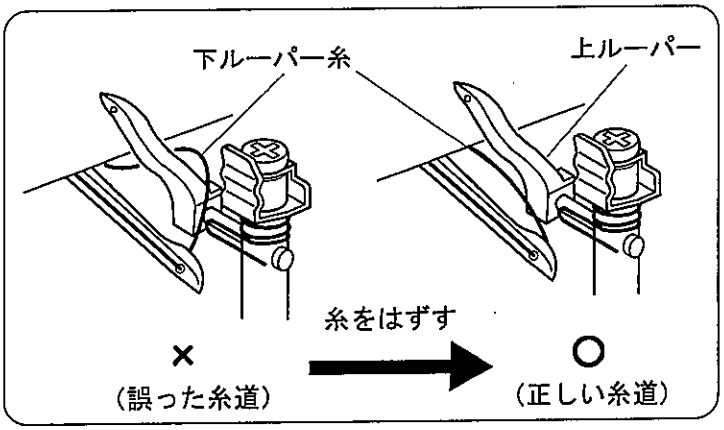
⑥ルーパー天秤(上)に糸を掛けます。



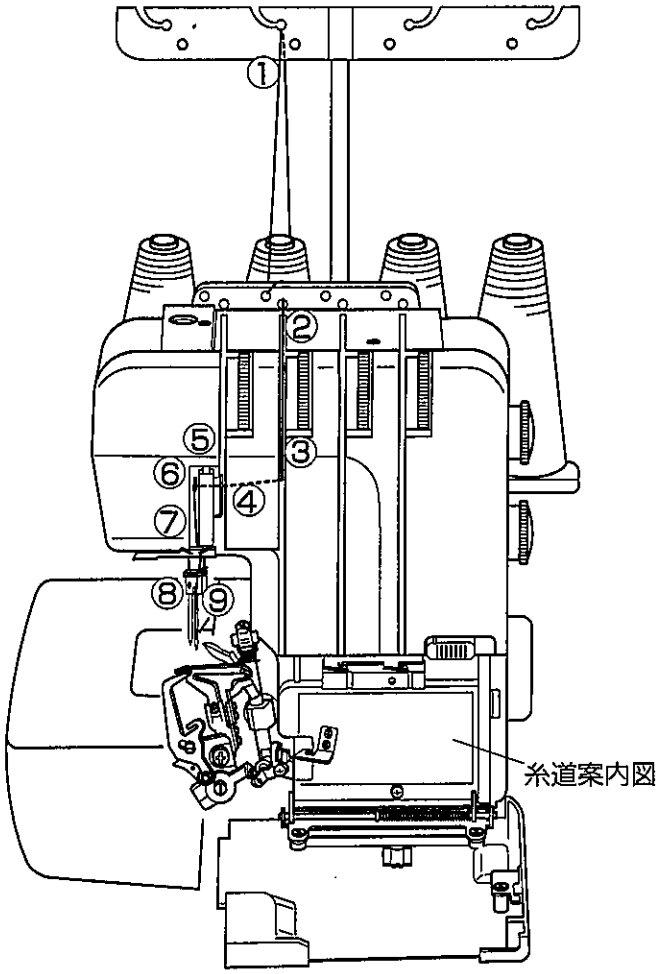
⑦上ルーパー糸案内に右側から糸を掛けます。

⑧糸の先端をピンセットでつまみ、上ルーパーの穴に通します。糸は糸穴から10cmほど引き出しておきます。

＊糸を通し終わったら、ルーパーカバーをしめます。



＊上ルーパー糸を通すときは、上ルーパーから下ルーパー糸をはずして通してください。



糸道案内図

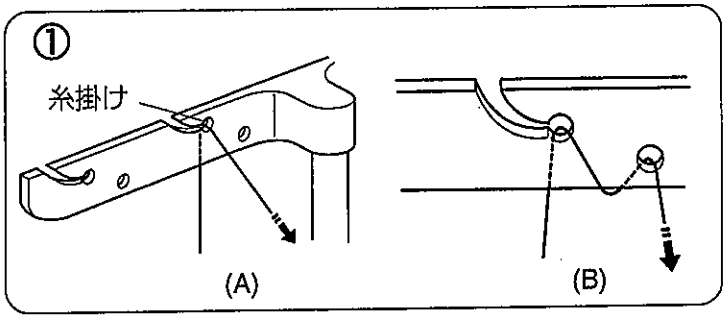
◆右針糸の通し方

＊青色マークの糸道を通してください。

＊ルーパーカバーをひらきます。

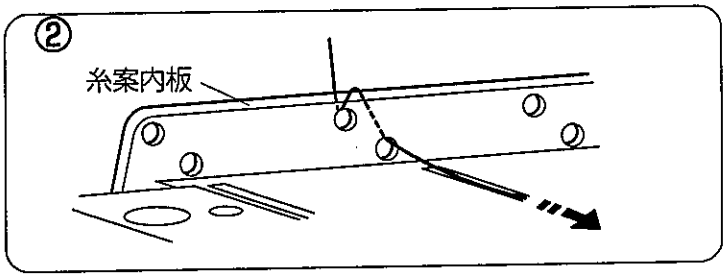
＊糸道案内図は、ルーパーカバーをあけると左図の位置にあります。

⚠ 電源スイッチを切ってください。

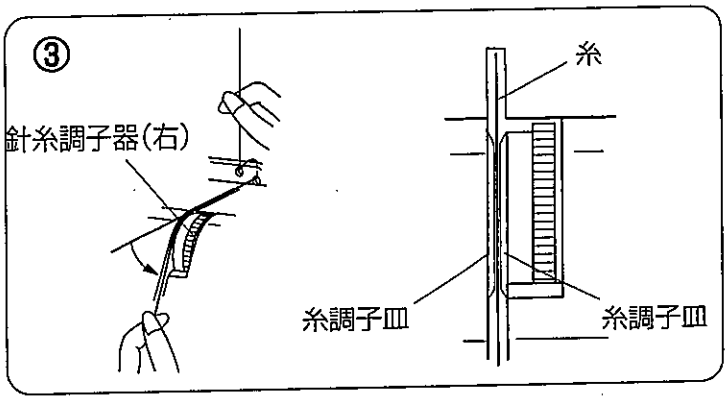


①糸こまから引き出した糸を、左から2番目の糸掛けに掛けます。

＊通常は(A)のように糸を掛けますが、糸掛けから外れやすい糸は(B)のように穴にもう一度通します。



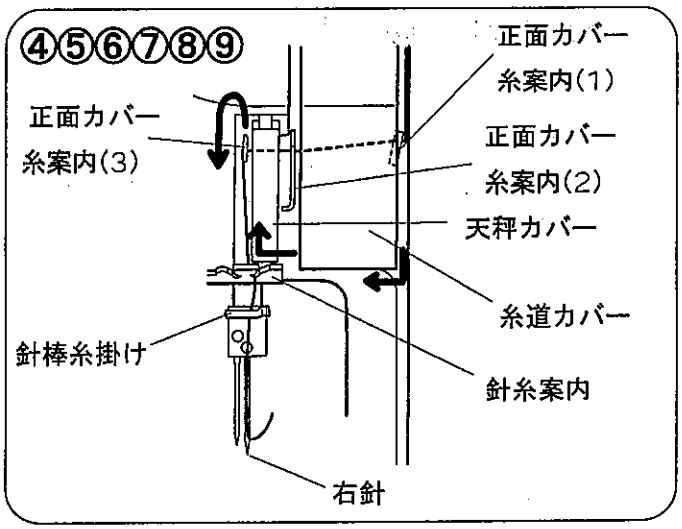
②糸を糸案内板の左から2番目の2つの穴に通します。



③溝にそって糸を引き、針糸調子器(右)に糸を通します。

＊押さえ上げを上げると糸調子皿が開放され、糸が入りやすくなります。

＊糸の両端をもって軽くしごき、糸が確実に糸調子皿2枚の間に入っていることを確かめてください。



④はずみ車を手前にまわして針を最上部にあげます。
⑤糸を正面カバーの溝にそって糸道カバーの下側まで引き降ろし、そのまま天秤カバーの下までまわします。

⑥次に、天秤カバーの左側面にそって糸を引き上げ、正面カバー糸案内(3)の上側から糸を通します。

⑦針糸案内の右側の溝に糸を掛けます。

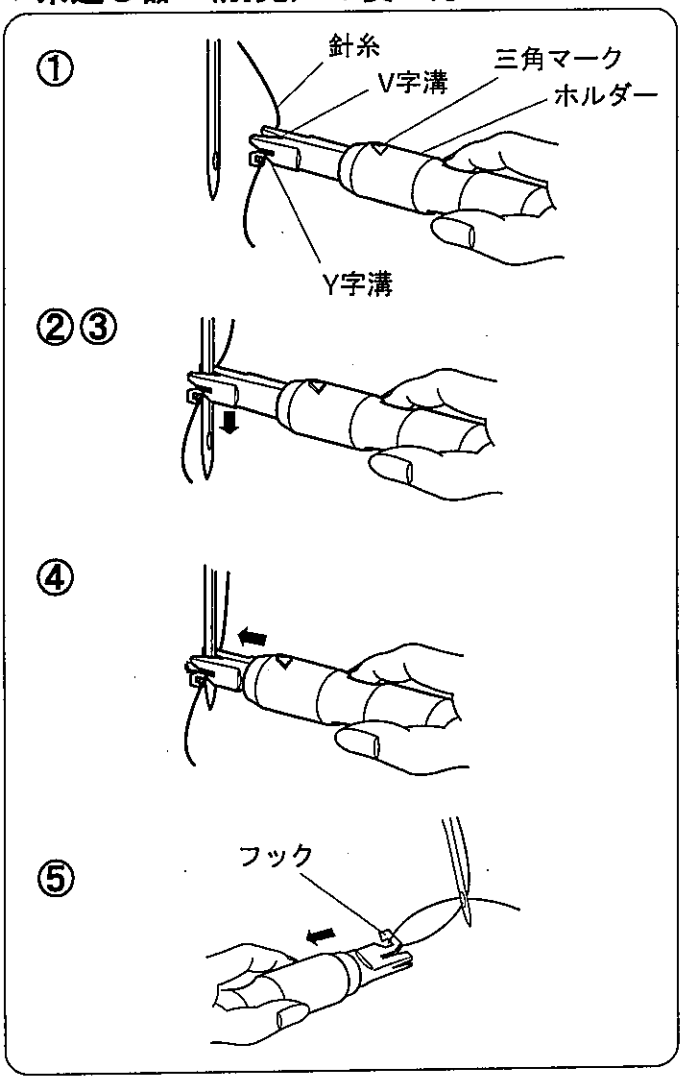
⑧針棒糸掛けに左側から糸を掛けます。

⑨右針の針穴に手前から糸を通します。

糸は押さえの下から向こう側へ10cmほど引き出しておきます。

＊糸を通し終わったら、ルーパーカバーをしめます。

◆糸通し器 （別売）の使い方



針に糸を通すときは、糸通し器を利用すれば、かんたんに糸を通すことができます。

⚠ 電源スイッチを切ってください。

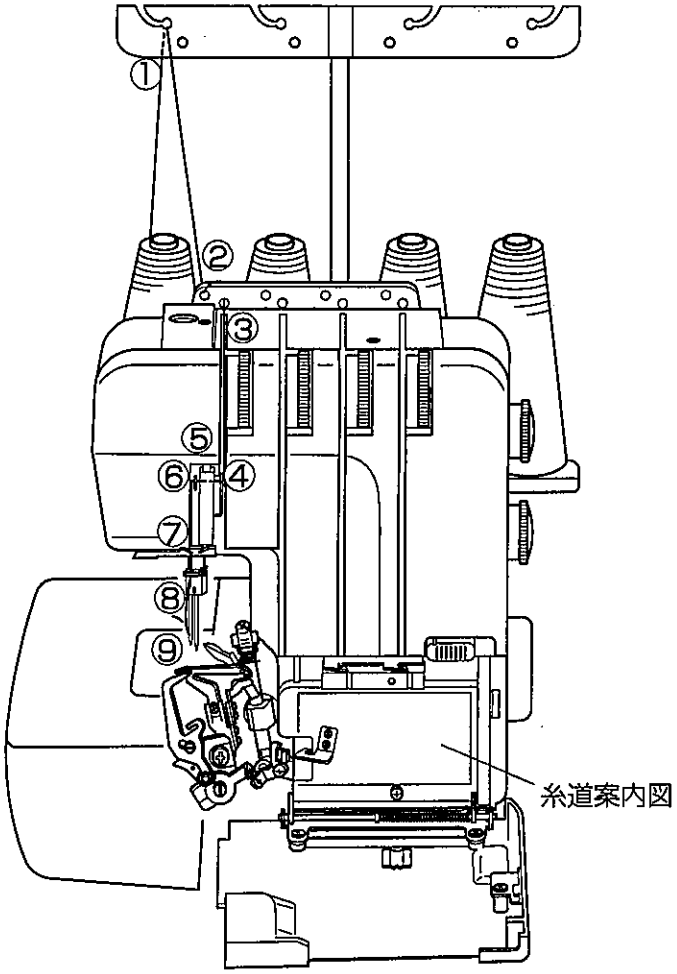
①ホルダーの三角マークを上向きにして持ち、針糸を横向きのY字溝に入れます。

②ホルダーの三角マークを上向きにして、糸の端を持ち、V字溝を針の中ほどに軽く押し当てます。

③糸の端を持ったまま、ホルダーを針に軽く押し当てながら下にゆっくりとすべらせます。

④糸通しピンが針穴に入ったら、ホルダーを押して針糸を針穴に通します。

⑤ホルダーをゆっくり戻し、糸輪をフックに掛け後ろに引き出します。



糸道案内図

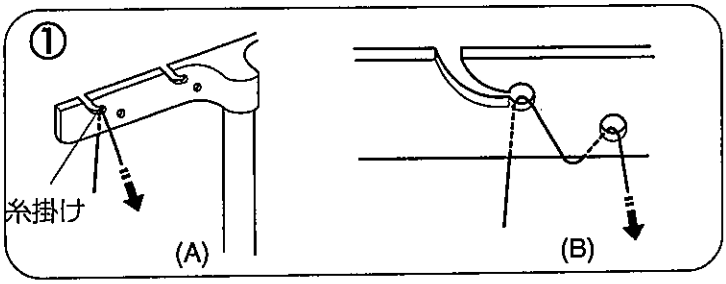
◆左針糸の通し方

＊オレンジ色マークの糸道を通してください。

＊ルーパーカバーをひらきます。

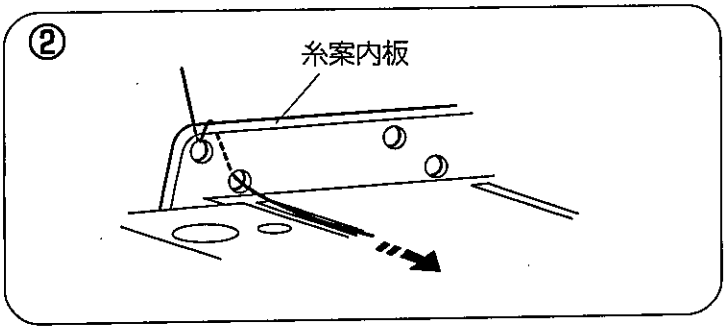
＊糸道案内図は、ルーパーカバーをあけると左図の位置にあります。

⚠ 電源スイッチを切ってください。

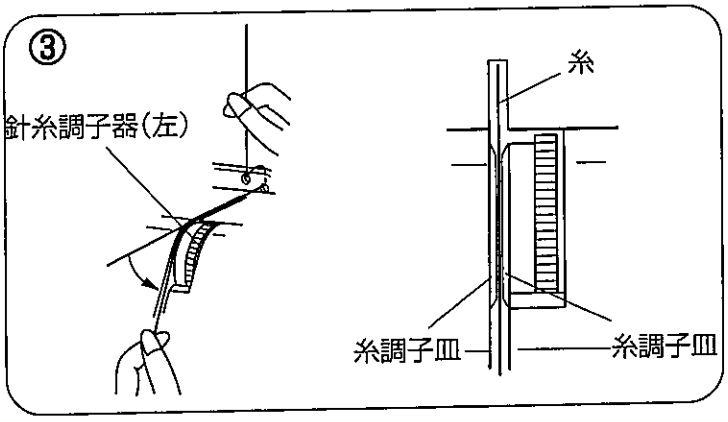


①糸こまから引き出した糸を、左側の糸掛けに掛けます。

＊通常は(A)のように糸を掛けますが、糸掛けから外れやすい糸は(B)のように穴にもう一度通します。



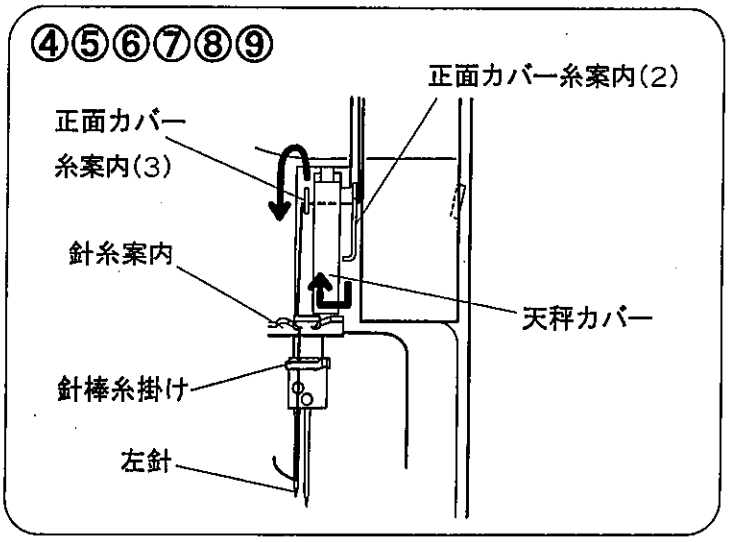
②糸を糸案内板の一番左側の2つの穴に通します。



③溝にそって糸を引き、針糸調子器(左)に糸を通します。

＊押さえ上げを上げると糸調子皿が開放され、糸が入りやすくなります。

＊糸の両端をもって軽くしごき、糸が確実に糸調子皿2枚の間に入っていることを確かめてください。



④はずみ車を手前にまわして針を最上部にあげます。

⑤糸を正面カバーの溝にそって正面カバー糸案内(2)の下側まで 引き降ろし、そのまま天秤カバーの下までまわします。

⑥次に、天秤カバーの左側面にそって糸を引き上げ、正面カバー糸案内(3)の上側から糸を通します。

⑦針糸案内の左側の溝に糸を掛けます。

⑧針棒糸掛けに左側から糸を掛けます。

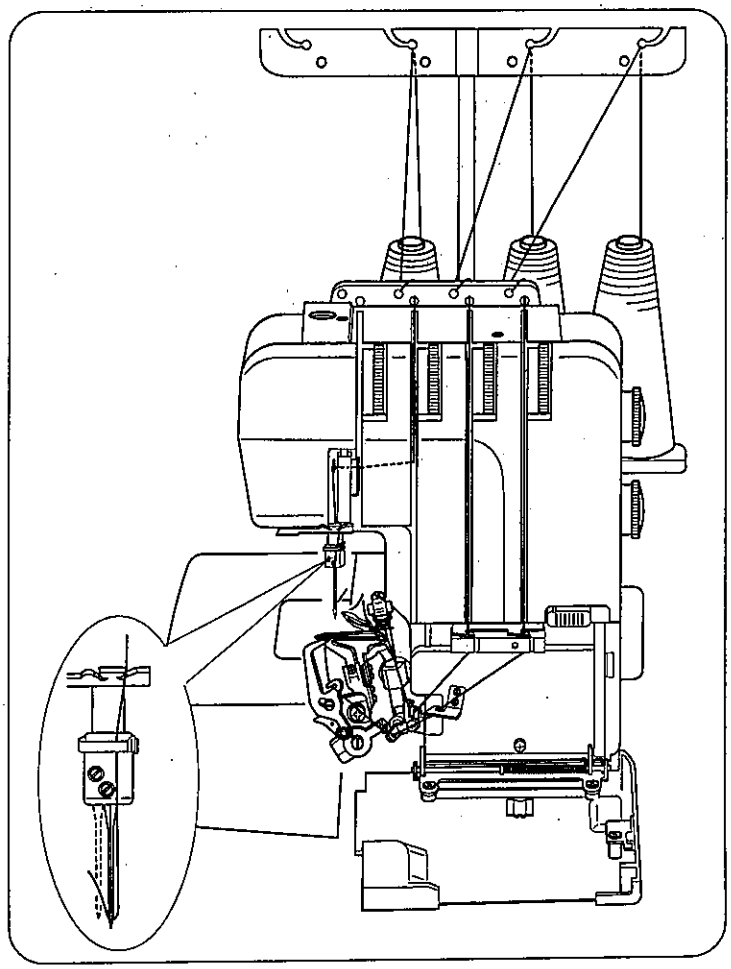
⑨左針の針穴に手前から糸を通します。

糸は押さえの下から向こう側へ10cmほど引き出しておきます。

＊糸を通し終わったら、ルーパーカバーをしめます。

＊針に糸を通すときは、糸通し器(別売)を利用すれば、かんたんに糸を通すことができます。
(21ページ参照)

●1本針3本糸 ふちかがりぬいの糸の通し方

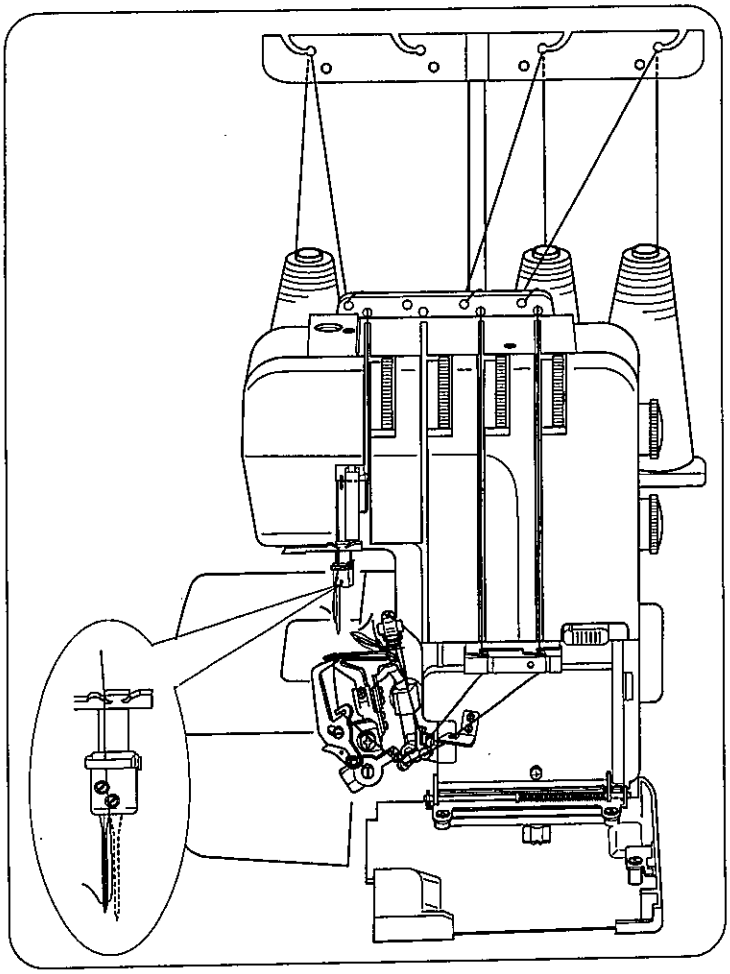


このミシンは1本針3本糸のかがりぬいもできます。針のとりつけ方で、かがり幅をかえることができます。

糸は上ルーパー糸、下ルーパー糸、左右いずれかの針糸を使います。

◆ 右針を使うとき

右針を使うと、標準のかがり幅は3.5mmです。
糸の通し方は左図のようになります。

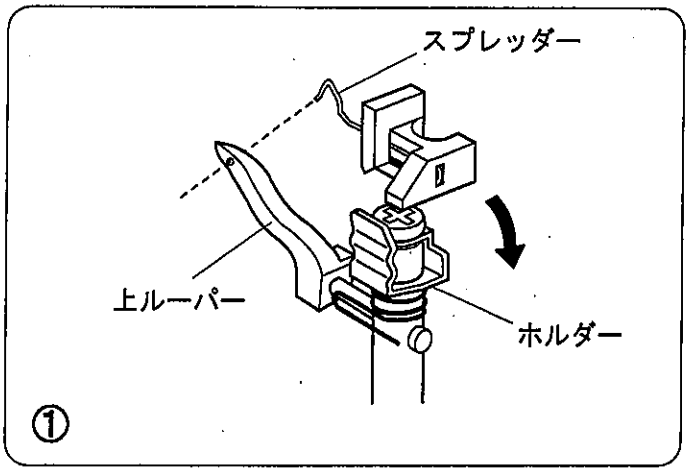


◆ 左針を使うとき

左針を使うと、標準のかがり幅は5.7mmです。
糸の通し方は左図のようになります。

＊使用しない針側の針止めねじは、針のセットが終わったら、ゆるんではずれないように軽くしめておきます。

●２本糸ふちかがりぬいへの切り替え

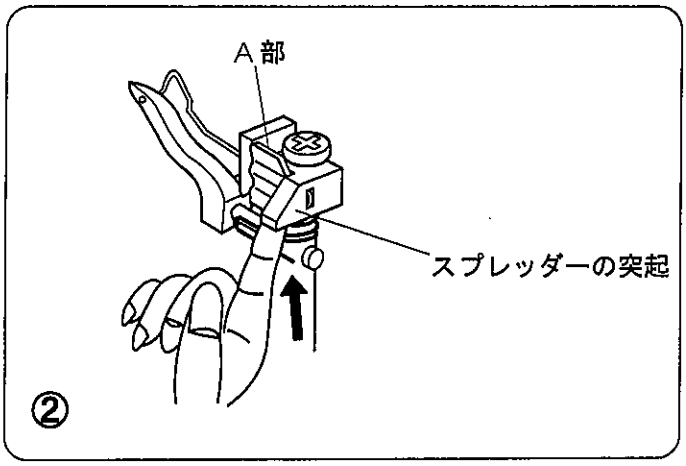


＊２本糸ぬいでは付属のスプレッダーを使います。

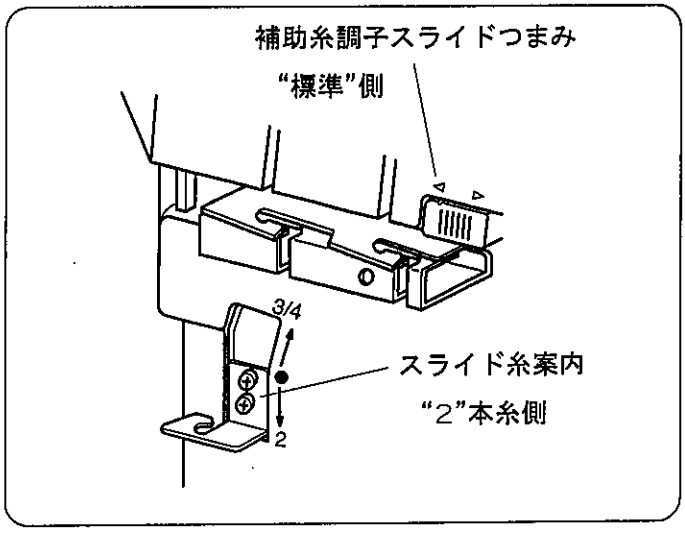
◆スプレッダーのつけ方、はずし方

⚠ 電源スイッチを切ってください。

①上ルーパーの穴に、スプレッダーの先端を後方から入れ、スプレッダーをホルダーに差し込みます。



②ホルダーのばねA部を、手前に軽く引きながらスプレッダーの突起を押し上げて抜き取ります。

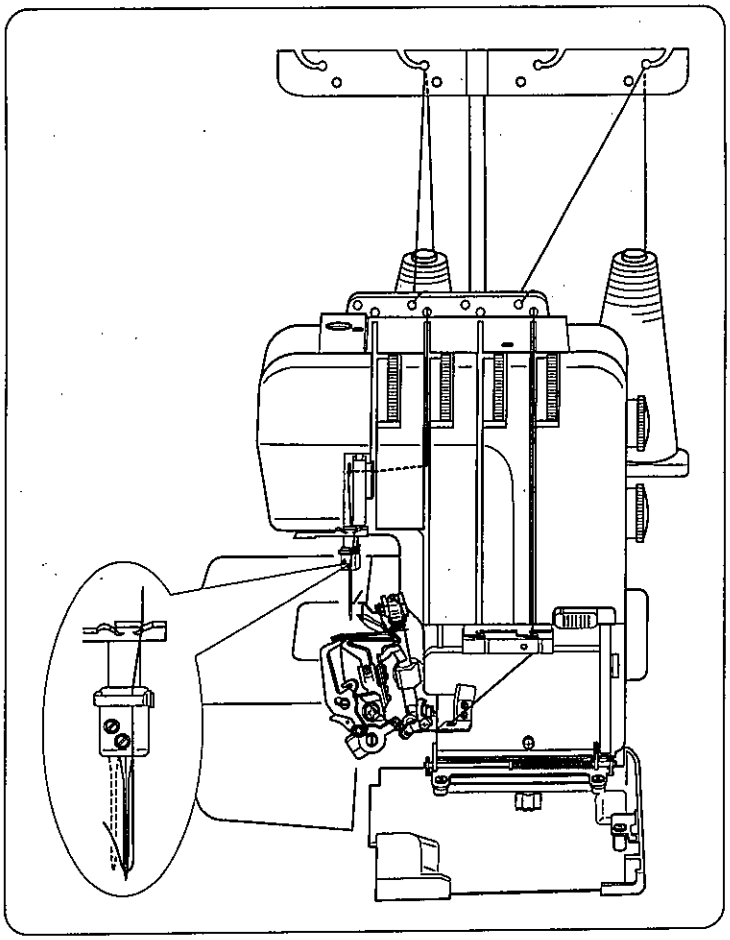


◆補助糸調子スライドつまみ、およびスライド糸案内のセット

２本糸ふちかがりぬいは、補助糸調子スライドつまみを”標準”側に、スライド糸案内を”２”本側にあわせます。

＊下ルーパー糸通しをするときは、補助糸調子スライドつまみを”標準”側に、スライド糸案内を”３／４”側にあわせておきます。

●2本糸ふちかがりぬいの糸の通し方

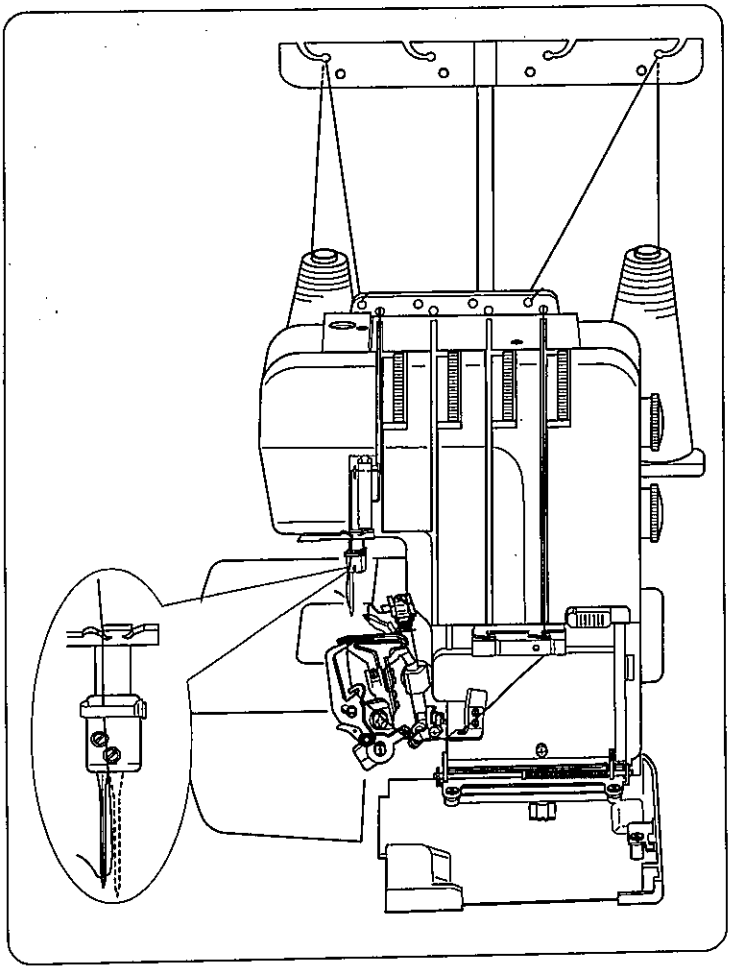


1本針2本糸のふちかがりぬいも、1本針3本糸のふちかがりぬいと同じように、針のとりつけ方で、かがり幅を変えることができます。

糸は下ルーパー糸と左右いずれかの針糸を使います。

◆右針を使うとき

右針を使うと、標準のかがり幅は3.5mmです。
糸の通し方は左図のようになります。

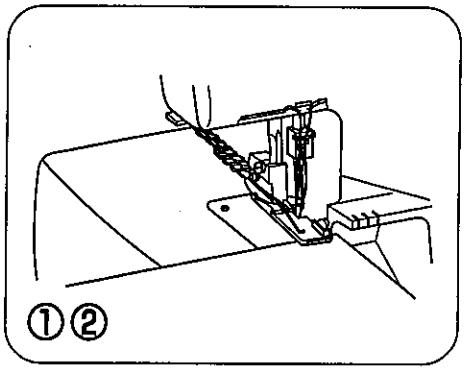


◆左針を使うとき

左針を使うと、標準のかがり幅は5.7mmです。
糸の通し方は左図のようになります。

＊使用しない針側の針止めねじは、針のセットが終わったら、ゆるんではずれないように軽くしめておきます。

●試しぬいをしましょう



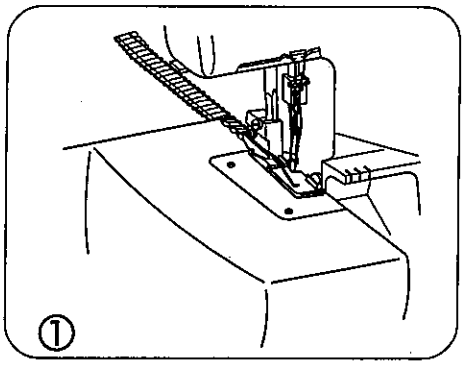
◆ぬい始め

①押さえ上げをさげます。

②各糸を押さえの下から向こう側に引きそろえて、軽く向こう側へ引きながらゆっくりぬい始め、5～6cm、カラぬいをします。
カラぬいした糸のからみぐあいを確かめながら、布をセットしてぬい始めます(押さえをあげる必要はありません)。

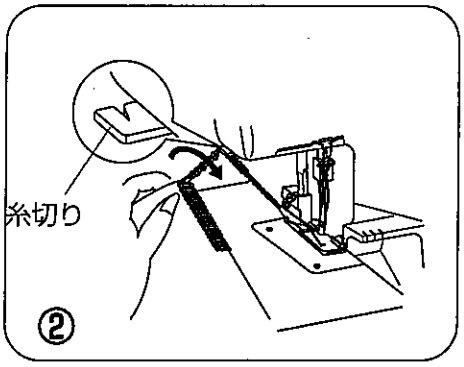
＊布を無理に押したり、引いたりせずに、ぬいたい方向に軽く案内してください。

＊厚い布をぬうときは、押さえ上げをあげ、布地を上メスの手前まで差し入れ、押さえ上げをさげて手で補助しながらぬい始めます。

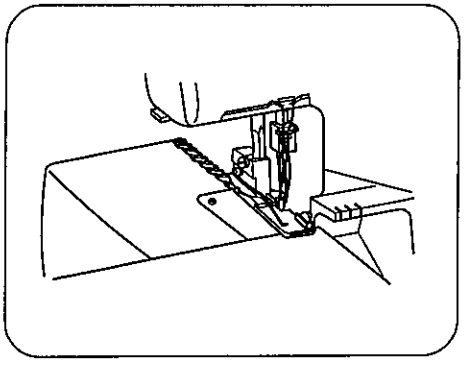


◆ぬい終わり

①布の端までぬい終わったら、そのままミシンを低速で、約12～13cm、カラぬいをします。



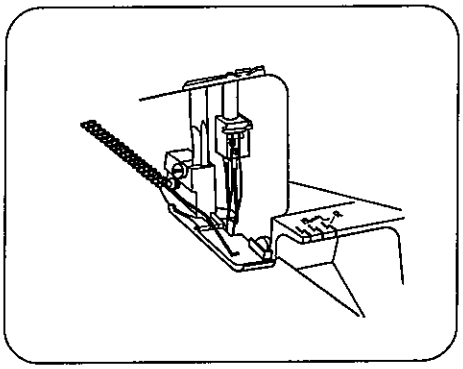
②布の端より5～6cm残し、カラぬいをした糸を糸切りか、はさみで切ります。



◆つづけてぬうとき

押さえ上げをあげずに、つぎの布地を押さえの下に差し込むようにしてぬいます。

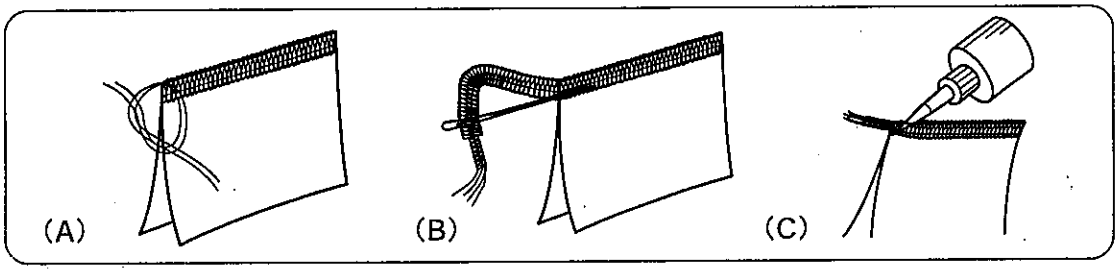
＊厚い布をぬうときは、押さえ上げをあげ、布地を上メスの手前まで差し入れ、押さえ上げをさげて手で補助しながらぬい始めます。

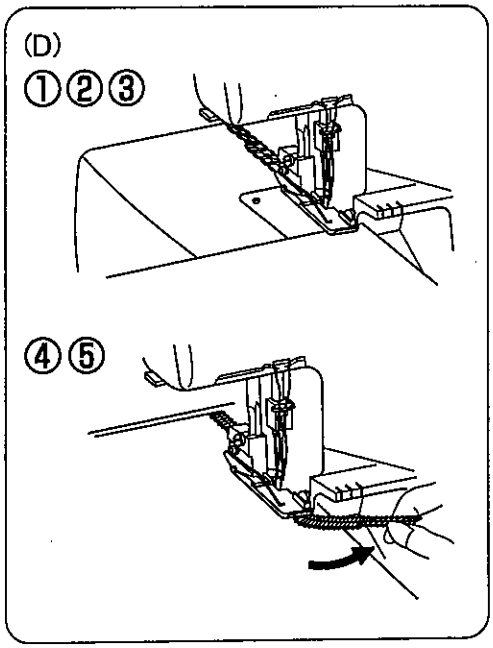


◆ガイドラインの使い方

ルーパーカバーの上部には、針落ちからの距離を示すガイドラインが表示されています。布ふちから、ぬい目までの目安としてお使いください。
3本ある刻み線は6mm間隔となっており、中央は針落ちから15mmです。
それぞれの刻み線は、実線が右針、点線が左針からの距離を表しています。

●ぬい始め、ぬい終わりの糸の始末





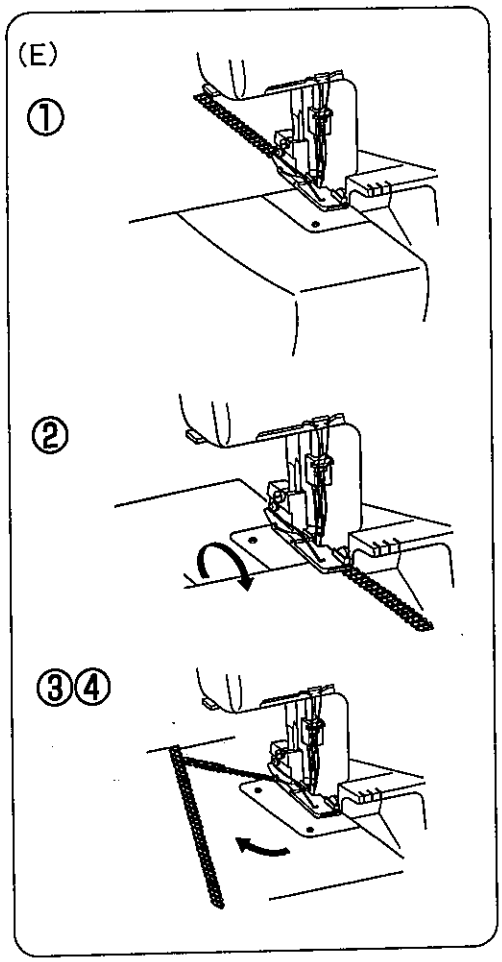
ぬい始め、ぬい終わりの糸をそのままにしておくとほつれてしまいます。ぬい始め、ぬい終わりの糸の始末には色々な方法がありますので、お好みの方法をお選びください。

(A)5cm位のカラぬい糸をほどき、その糸を使って布端で結び目を作る方法。

(B)カラぬい糸をとじ針でぬい目の中に入れる方法。

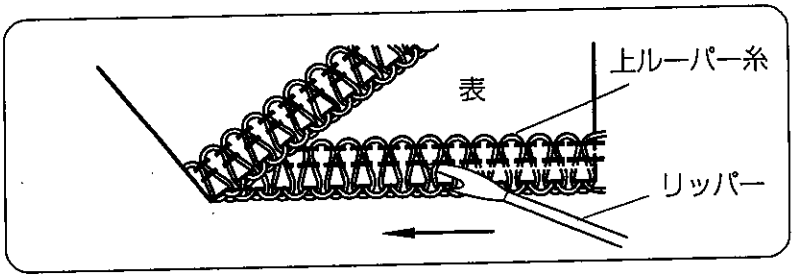
(C)布端のカラぬい糸の根元に手芸用ボンドを少し付け,乾燥してから余分な糸を切り落とす方法。

(D)ロックミシンでぬい始めを始末する方法。
①カラぬい糸を5cm位出しておきます。
②布地を入れ、2～3針だけぬいます。
③ミシンを止め、押さえをあげます。
④カラぬい糸を左から押さえの下に入れ、軽く手前に引きながら、押さえを下げ、布といっしょにぬい込みます。
⑤2～3cmぬったら、カラぬい糸を右に寄せてメスで切り落としながらぬいこみます。



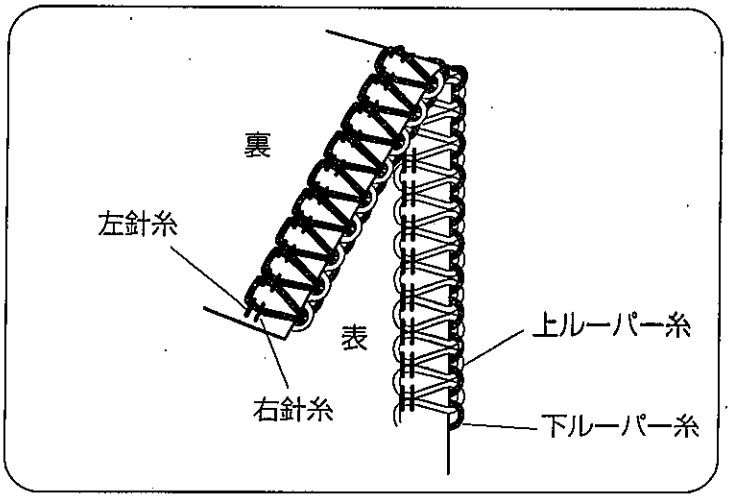
(E)ロックミシンでぬい終わりを始末する方法
①布地の終わりの所でミシンを止めます。
②針と押さえを上げ、布地をかがり爪からはずして裏返します。かがり幅を合わせて針を落とし、押さえをさげます。
③今までぬった所がメスに当たらないように2～3cmぬいながら横方向に布地をはずします。
④余分なカラぬい糸を切り落とします。

●ぬい目のほどき方



上ルーパー糸のすべてを市販のリッパーなどで布地を痛めないように切断しますと、簡単にぬい目がほどけます。

●糸調子の出し方（2本針4本糸ふちかがりぬい）

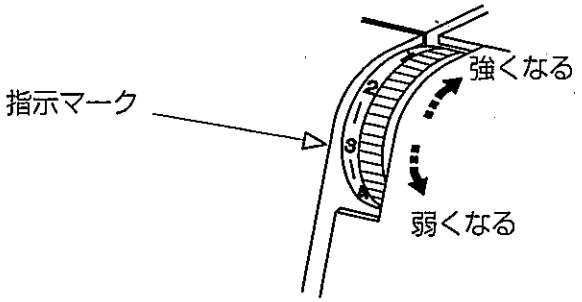


◆正しい糸調子

針糸、上ルーパー糸、下ルーパー糸の各糸調子は、糸調子器の目盛「3」を基準にしています。

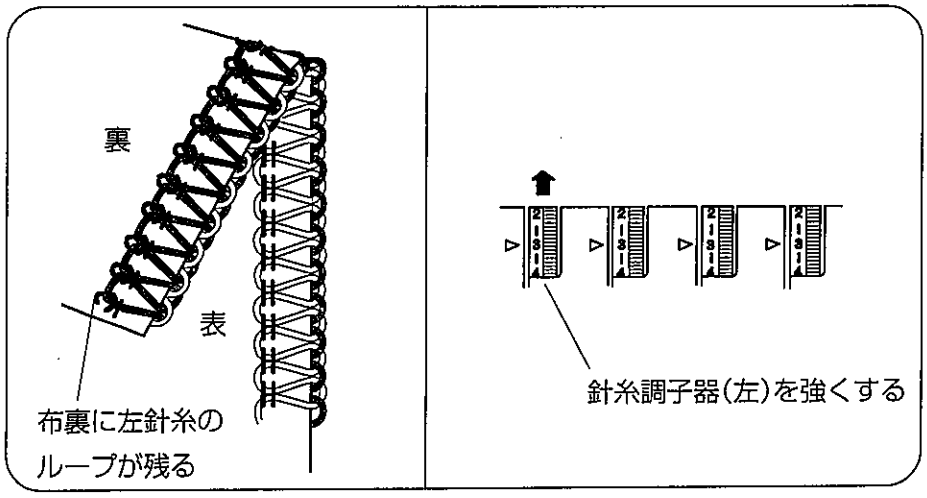
＊糸調子は、布地の種類や糸の種類、糸の太さによって多少の調節が必要です。

＊ぬい目を見ながらそれぞれの糸調子器で調節してください。

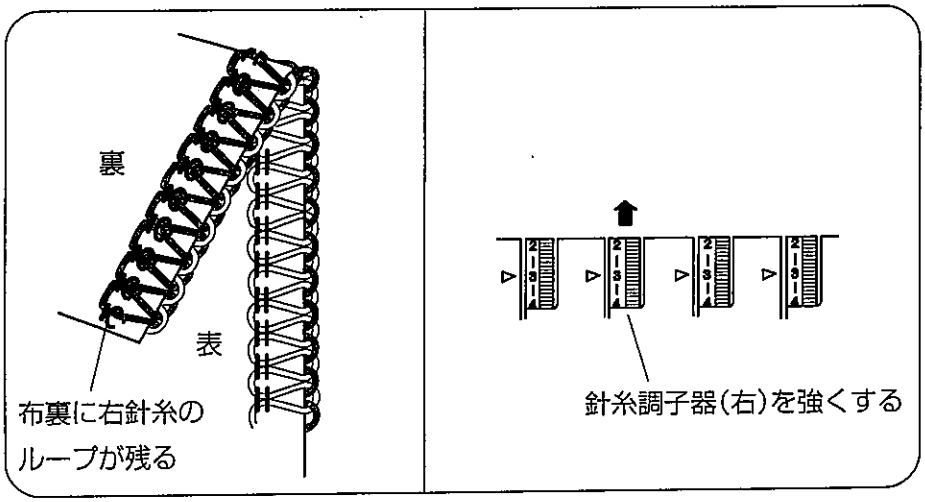


◆糸調子の調節のし方

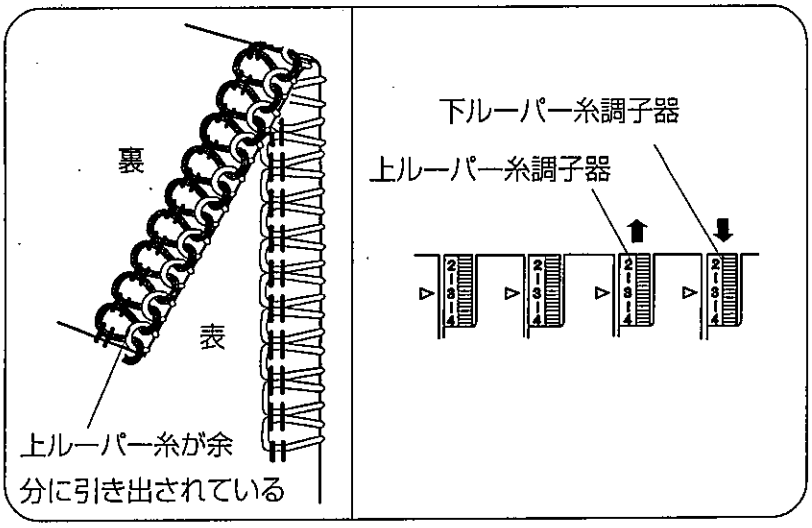
＊糸調子器は、試しぬいをして、ぬい目を見ながら正しく調節してください。
＊最初に針糸から調節してください。



《左針糸が弱いとき》
針糸調子器(左)を強くする。

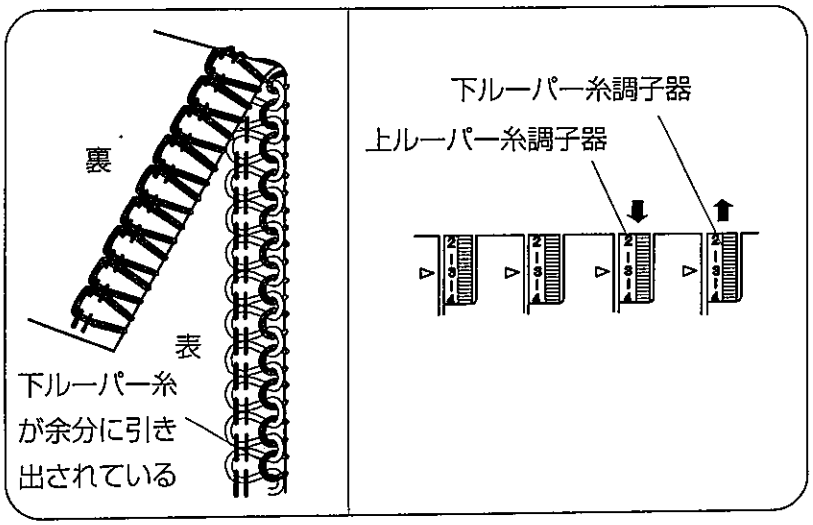


《右針糸が弱いとき》
針糸調子器(右)を強くする。



《下ルーパー糸が強いか、
上ルーパー糸が弱いとき》

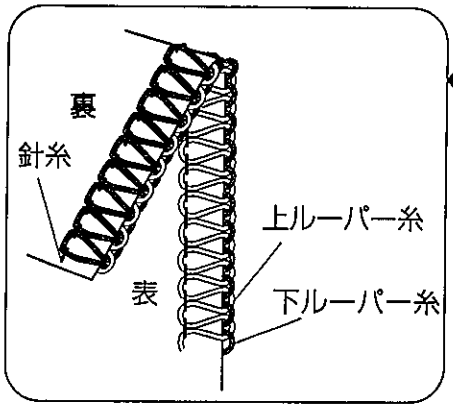
下ルーパー糸調子器を弱くする。または上ルーパー糸調子器を強くする。



《下ルーパー糸が弱いか、
上ルーパー糸が強いとき》

下ルーパー糸調子器を強くする。または上ルーパー糸調子器を弱くする。

●糸調子の出し方（1本針3本糸ふちかがりぬい）

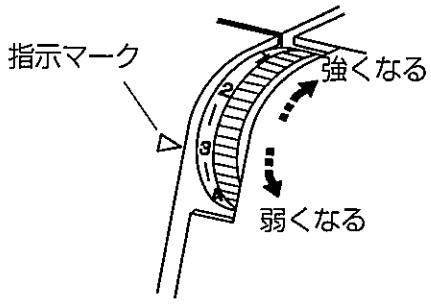


◆正しい糸調子

針糸、上ルーパー糸、下ルーパー糸の各糸調子は、糸調子器の目盛「3」を基準にしています。

＊糸調子は、布地の種類や糸の種類、糸の太さによって多少の調節が必要です。

＊ぬい目を見ながらそれぞれの糸調子器で調節してください。



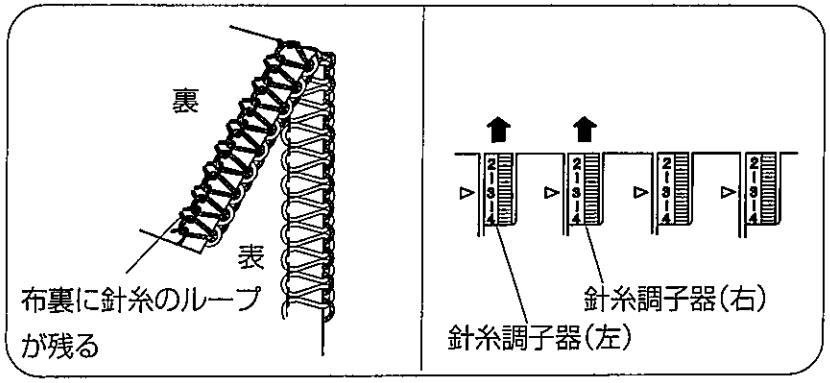
◆糸調子の調節のし方

＊糸調子器は、試しぬいをして、ぬい目を見ながら正しく調節してください。

＊最初に針糸から調節してください。

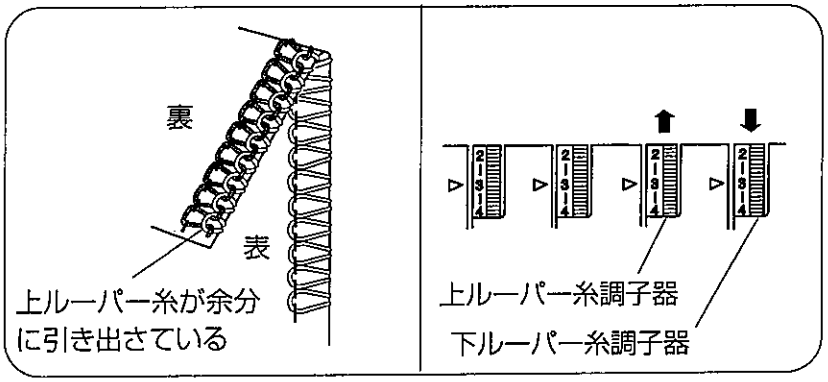
《針糸が弱いとき》

使用している側の針糸調子器を強くする。



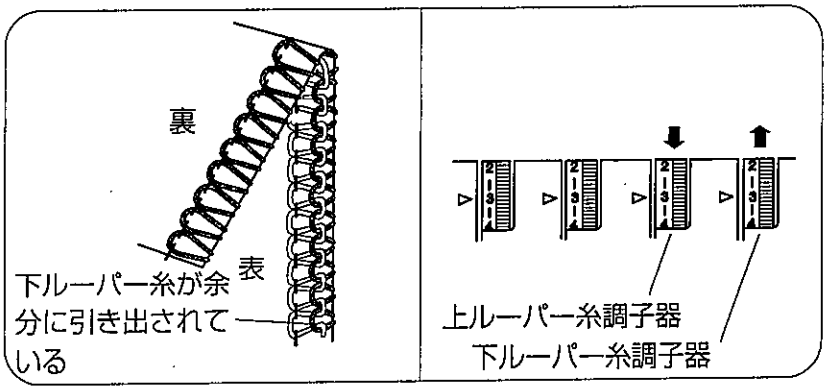
《下ルーパー糸が強いか、上ルーパー糸が弱いとき》

下ルーパー糸調子器を弱くする。または
上ルーパー糸調子器を強くする。

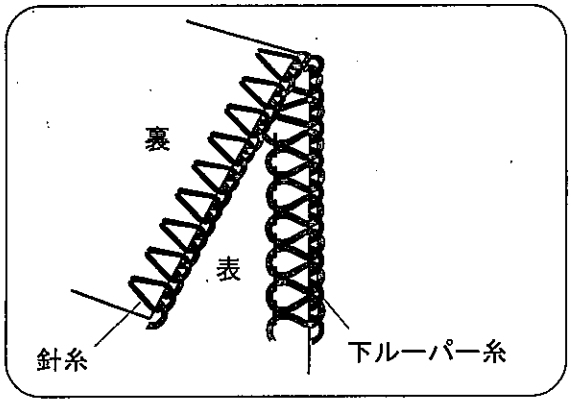


《下ルーパー糸が弱いか、上ルーパー糸が強いとき》

下ルーパー糸調子器を強くする。または
上ルーパー糸調子器を弱くする。



●糸調子の出し方（１本針２本糸ふちかがりぬい）



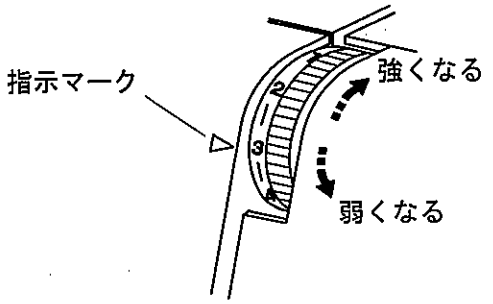
◆正しい糸調子

針糸、下ルーパー糸の各調子は、針糸調子器の目盛「２」、
下ルーパー糸調子器の目盛「３～４」を基準にしてます。

＊補助糸調子スライドつまみは「標準」側、スライド糸案内は「２」本糸側にセットします。

＊糸調子は、布地の種類や糸の種類、糸の太さによって多少の調節が必要です。

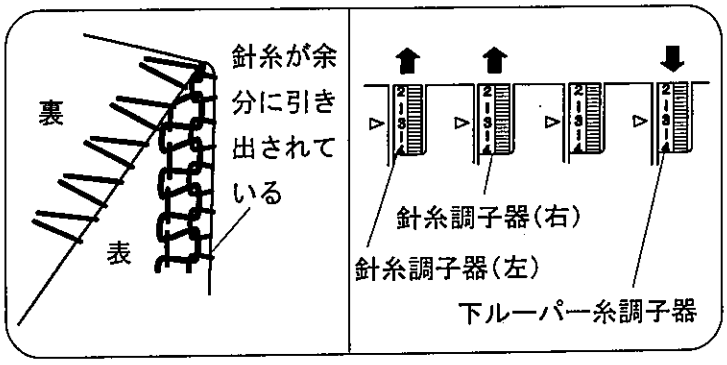
＊ぬい目を見ながらそれぞれの糸調子器で調節してください。



◆糸調子の調節のし方

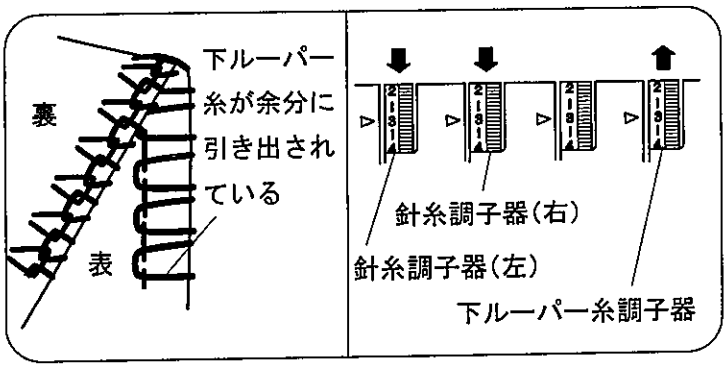
＊糸調子器は、試しぬいをして、ぬい目を見ながら正しく調節してください。

＊最初に針糸から調節してください。



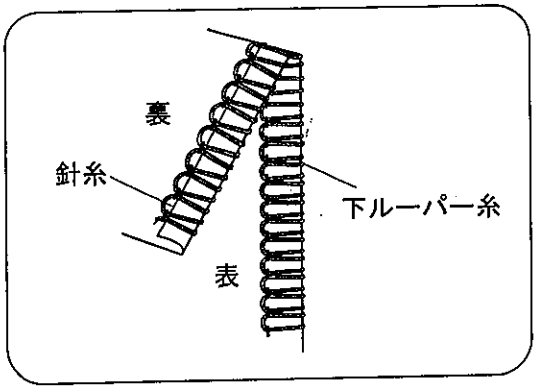
《下ルーパー糸が強いか、針糸が弱いとき》

下ルーパー糸調子器を弱くする。または使用している側の針糸調子器を強くする。



《針糸が強いか、下ルーパー糸が弱いとき》

使用している側の針糸調子器を弱くする。または下ルーパー糸調子器を強くする。



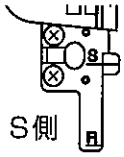
◆巻きぬい(1本針2本糸)の正しい糸調子

＊糸調子は、布地の種類や糸の種類、糸の太さによって調節が異なります。まず下記の目盛を目安に試しぬいをして、ぬい目を見ながら正しく調節してください。

針糸：「3」
下ルーパー糸：「3」(補助糸調子スライドつまみ：「巻き縫い」側)

＊スライド糸案内は「2」本糸側にセットします。
その他のぬい条件の目安は「1本針3本糸の巻きぬい」と同じです。
(34ページ参照)

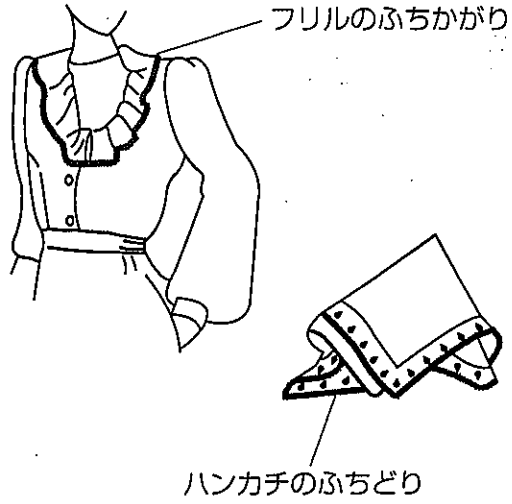
●布に適した糸や針を選ぶ目安（ふちかがりぬいと合わせかがりぬい）

布の種類		糸	針	縫い目のあらさ調節ダイヤル	縫い目の伸縮調節ダイヤル	かがり爪つまみのセット位置	補助糸調子スライドつまみのセット位置
うすい布	裏地 ジョーゼット ローン クレープデシン オーガンジー	化繊糸 #80~100	HA×1SP #11~#14	2~3	0.5~1.0		
普通の布	木綿地 リンネル サテン シーチング	化繊糸 #60~100	HA×1SP #14	2.5~3.5	1.0		
厚い布	ツイード キルティング デニム ギャバジン	化繊糸 #50~60	HA×1SP #14	3~5	1.0		
ニット地	メリヤス ジャージー	化繊糸 #60~90 ウーリーナイロン糸 (ルーパー糸用)	HA×1SP #11~#14	2.5~3.5	1.0~2.2		

＊糸調子の目安は糸調子の出し方(2本針4本糸)、(1本針3本糸)、(1本針2本糸)をご覧ください。
＊ウーリーナイロン糸は、巻きぬい、細ロックぬいのルーパー糸に使用します。

●1本針3本糸の巻きぬい、ピコぬい、細ロックぬい

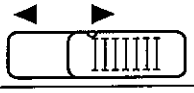
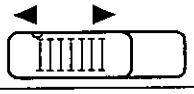
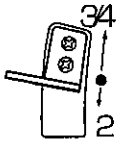
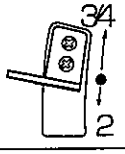
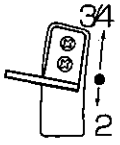
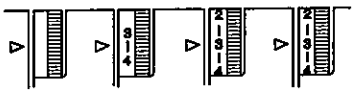
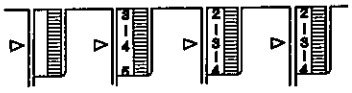
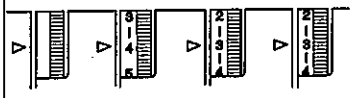
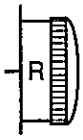
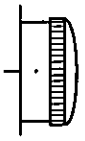
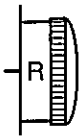
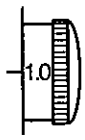
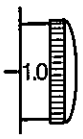
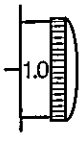
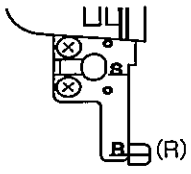
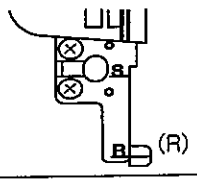
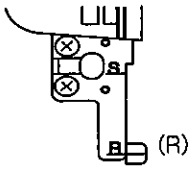
〈実用例〉



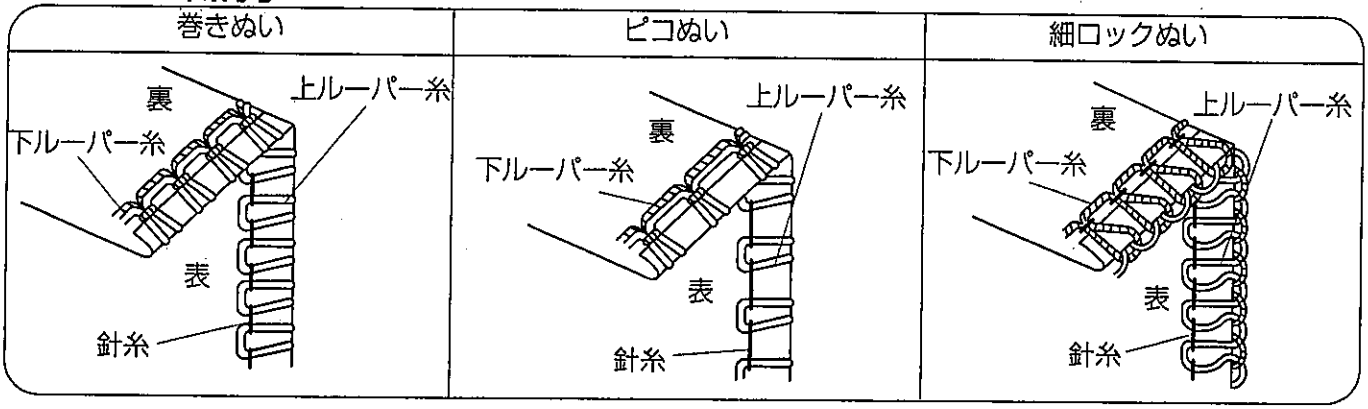
⚠ 針をはずすときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

⚠ かがり爪つまみをセットするときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

＊補助糸調子スライドつまみを「巻き縫い」側へ切り替えるときは、糸通しを終わらせてから行ってください。

	巻きぬい	ピコぬい	細ロックぬい
補助糸調子スライドつまみのセット位置	標準　巻き縫い	標準　巻き縫い 	標準　巻き縫い 
スライド糸案内のセット位置			
糸調子の目安			
縫い目のあらさ調節ダイヤル	 R	 3～4	 R
縫い目の伸縮調節ダイヤル	 1.0	 1.0	 1.0
かがり爪つまみのセット位置			
針	右針HA×1SP　#11（左側の針ははずしてください）		
針　糸	化繊糸　#80～100		
上ルーパー糸 下ルーパー糸	ウーリーナイロン糸または化繊糸#80～100	化繊糸　#60～100	ウーリーナイロン糸または化繊糸#80～100
布	うすい布（オーガンジー、クレープデシン、ローン、ジョーゼット）		

◆ 正しい糸調子

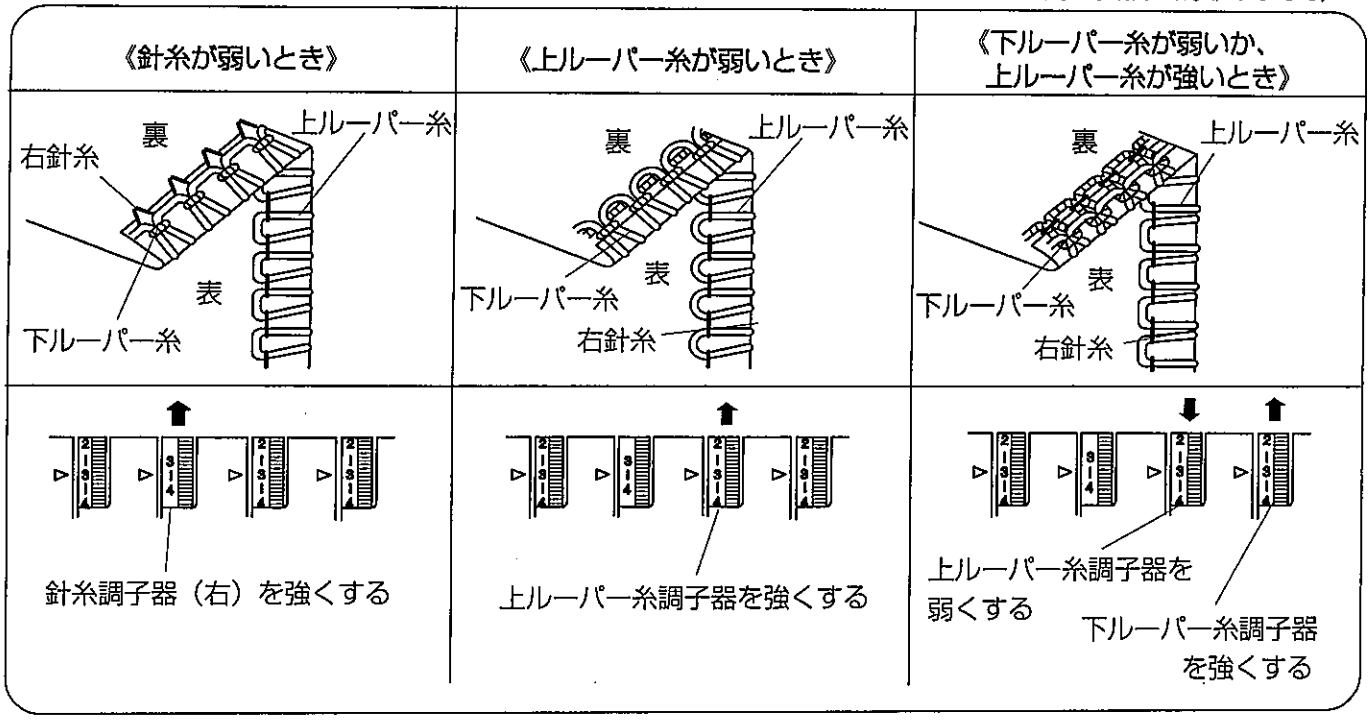


◆糸調子の調節のし方

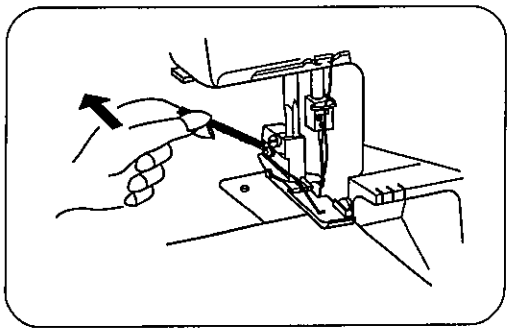
＊糸調子の目安(34ページ) を基準で試しぬいをして、ぬい目を見ながら正しく調節してください。

◆ 巻きぬいとピコぬいの糸調子

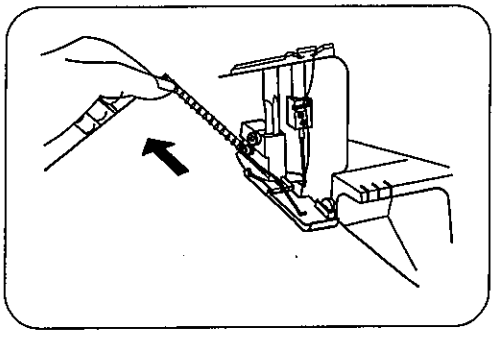
(＊細ロックぬいは 1本針3本糸ふちかがりぬいと同じ要領で調節します。)



── 上手に仕上げるには ──



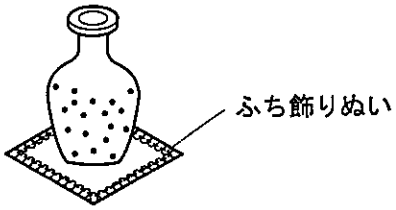
巻きぬい
ぬい始めは、カラぬいした糸を指で軽く向こう側へ引きぎみにしてぬうときれいに仕上がります



ピコぬい
布を軽く向こう側へ引きながらぬうと、きれいに仕上がります

●ふち飾りぬい

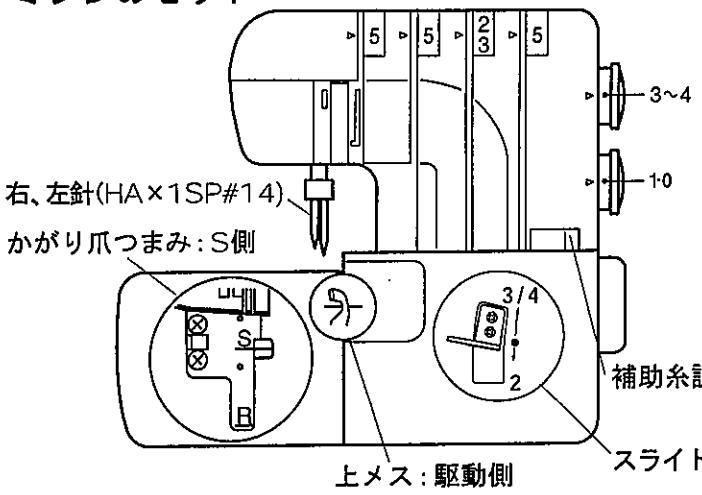
《実用例》



＊糸調子は、布地の種類や糸の種類、糸の太さによって多少の調節が必要です。ぬい目を見ながらそれぞれの糸調子器で調節してください。

＊太い糸を使用するとき、ぬい始めとぬい終わりは、カラぬいした糸を軽く向こう側へ引きながらぬうときれいに仕上がります。

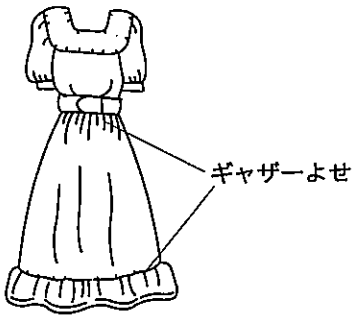
ミシンのセット



布	使用糸	
普通の布 厚い布	針糸(右、左)	化繊糸　#60~80
	上ルーパー糸	飾り糸、極細毛糸
	下ルーパー糸	化繊糸#60~100

●ギャザーよせ

《実用例》

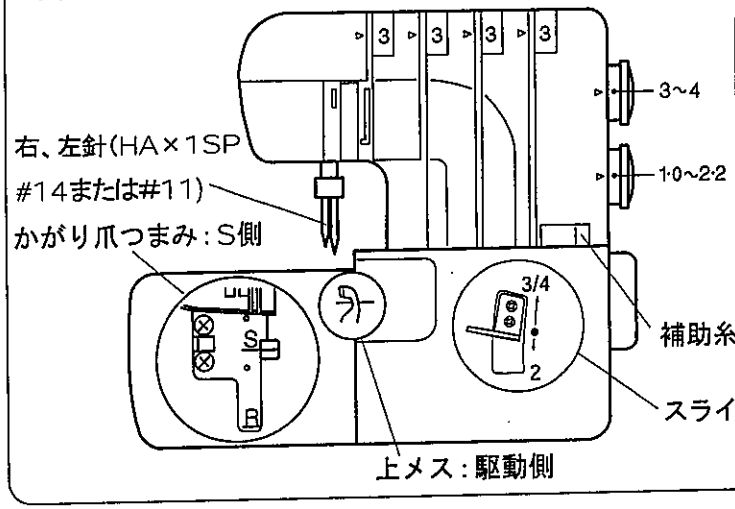


＊糸調子は、布地の種類によって多少の調節が必要です。ぬい目を見ながらそれぞれの糸調子器で調節してください。

＊ ギャザーよせぬいをするときは、縫い目の伸縮調節ダイヤルを1.0~2.2の間で行います。

＊2枚の布の、一方だけにギャザーをよせるときは、別売のギャザリングアタッチメントをお使いください。

ミシンのセット



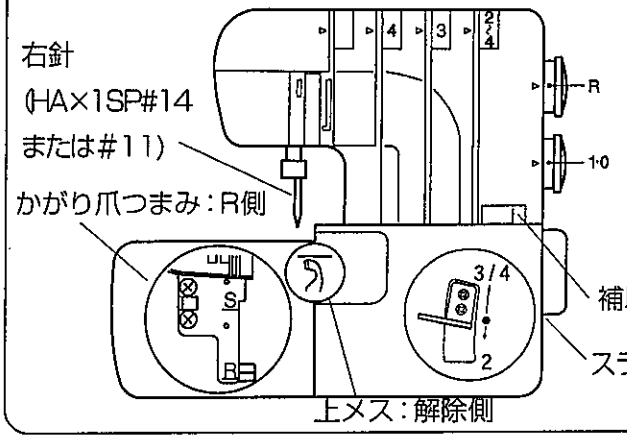
布	使用糸	
普通の布 うすい布	針糸(右、左)	化繊糸　#60~80
	上ルーパー糸 下ルーパー糸	化繊糸　#60~80

●ピンタック

《実用例》

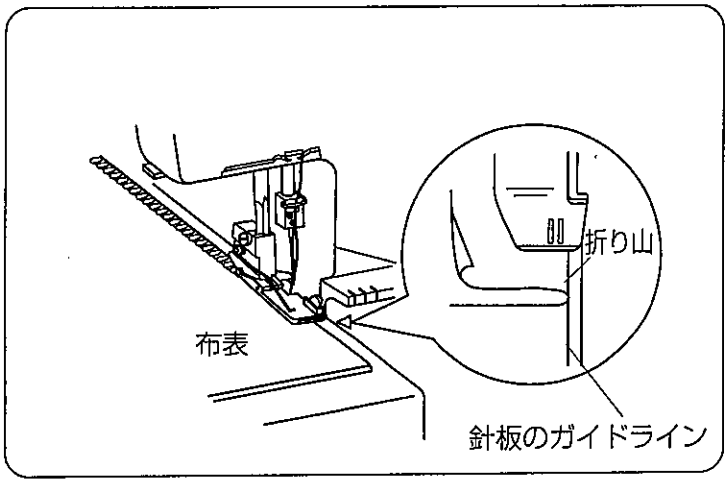
＊糸調子は、布地の種類や糸の種類、糸の太さによって多少の調節が必要です。ぬい目を見ながらそれぞれの糸調子器で調節してください。

ミシンのセット



布	使用糸	
うすい布 ニット地	針糸(右)	化繊糸＃80～100
	上ルーパー糸 下ルーパー糸	化繊糸＃80～100

(かがり爪つまみの切り替えは１２ページ参照)

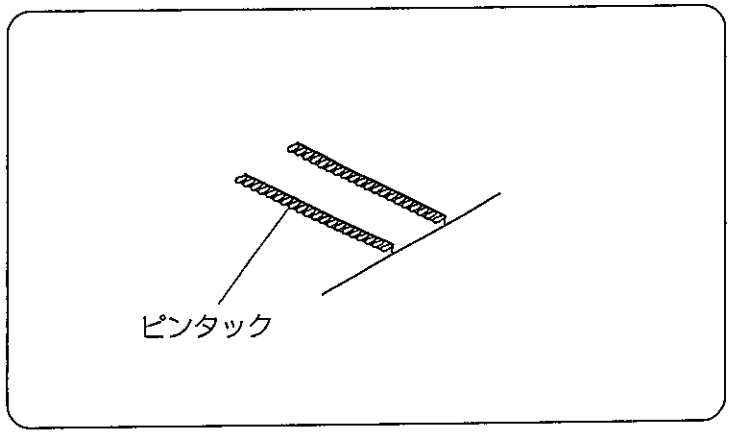


ぬい方

⚠ 電源スイッチを切ってください。

左側の針をはずしてください。(3本糸でぬいます。)
上メスを解除します。
電源スイッチを入れ折り山をガイドラインにあわせてぬいます。

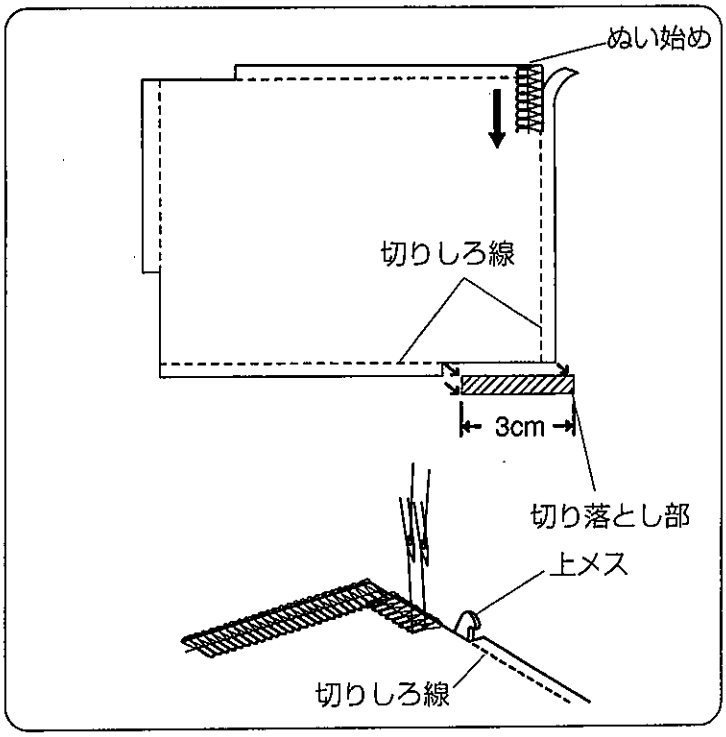
＊上メスの解除のし方は１１ページをご覧ください。



布をひらいて、アイロンで山を片側に倒します。

＊作業が終わったら、上メスをもとにもどしておいてください。

●コーナー部の上手なぬい方



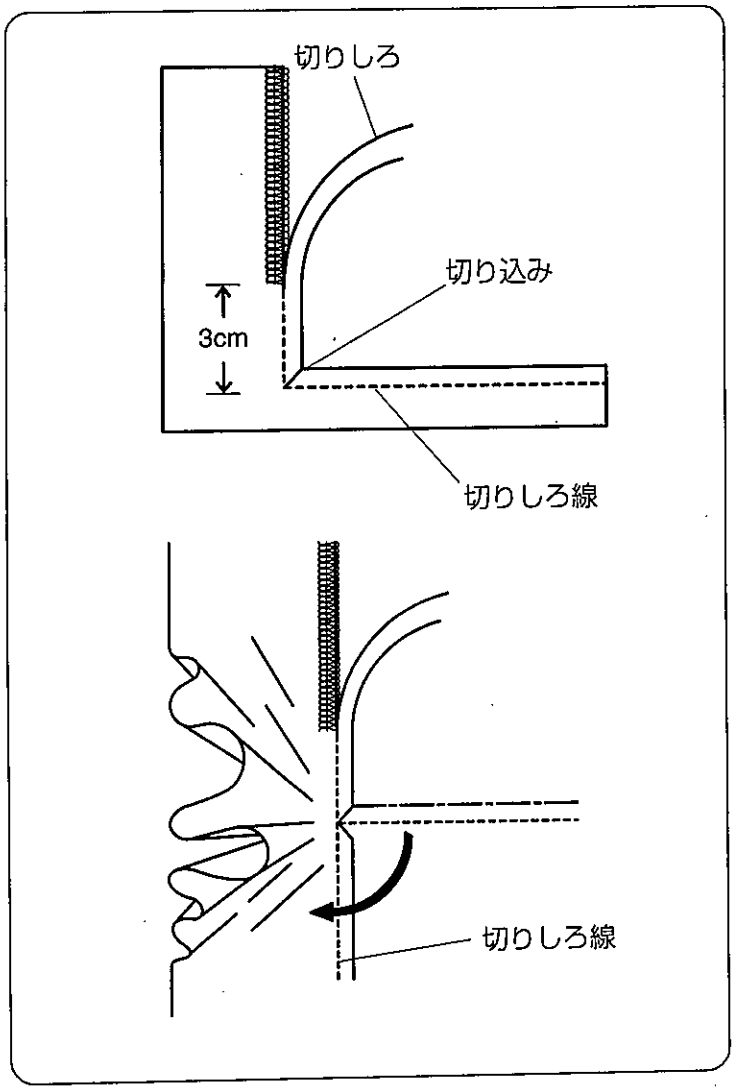
◆外角のとき

①四すみのうち、ぬい始め部をのぞく角を図のように切りしろ線にそって約3cm切り落とします。

②ぬい始め部から次の角までぬい終わったとき、ミシンを停止し、針と押さえを上げ、かがり爪から糸を抜きながら布をまわして切りしろ線に上メスを当てるようにセットします。

③押さえを下げます。

④コーナー部でぬい目が重なるようにぬいを続けます。



◆内角のとき

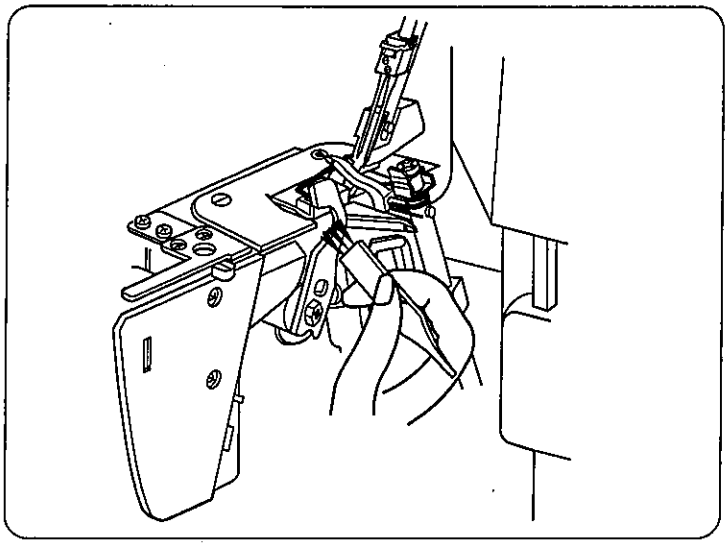
①あらかじめコーナー部に切り込みを入れます。

②コーナー部に向かってぬい進み、切り込みの約3cm手前でミシンを止めます。

③次にぬわれる切りしろ線を直線上にそろえ押さえの下側へ送り込みます。

④そのままぬい進みますと内角のぬいがきれいに仕上がります。

●切りくずの掃除

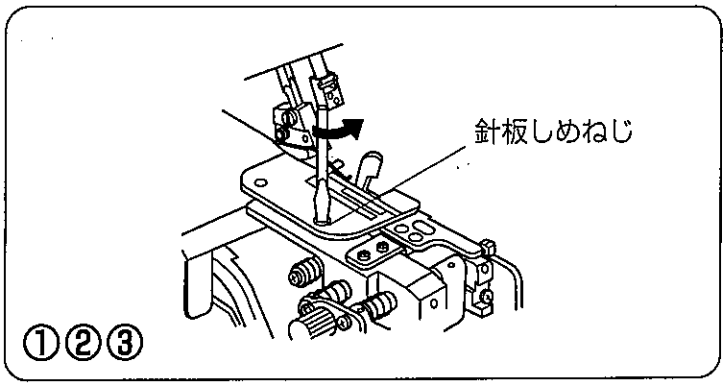


⚠電源スイッチを切ってください。

ルーパーカバーをひらき、切りくずをブラシで取り除きます。

＊ブラシで掃除しにくい切りくずやほこりは、電気掃除機で吸い取ってください。

●送り歯の掃除

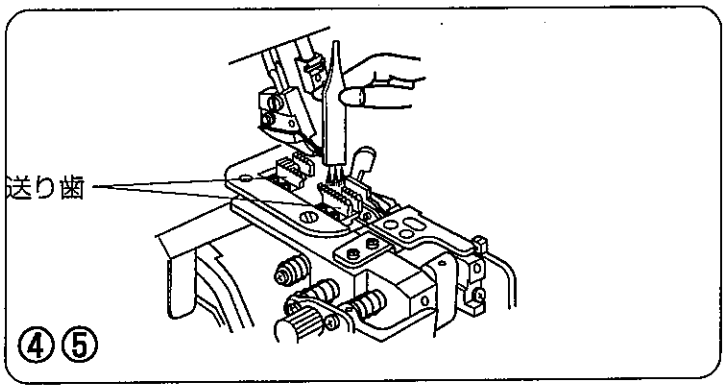


⚠ 電源スイッチを切ってください。

①ルーパーカバーと布板をひらきます。

②針と押さえをはずします。

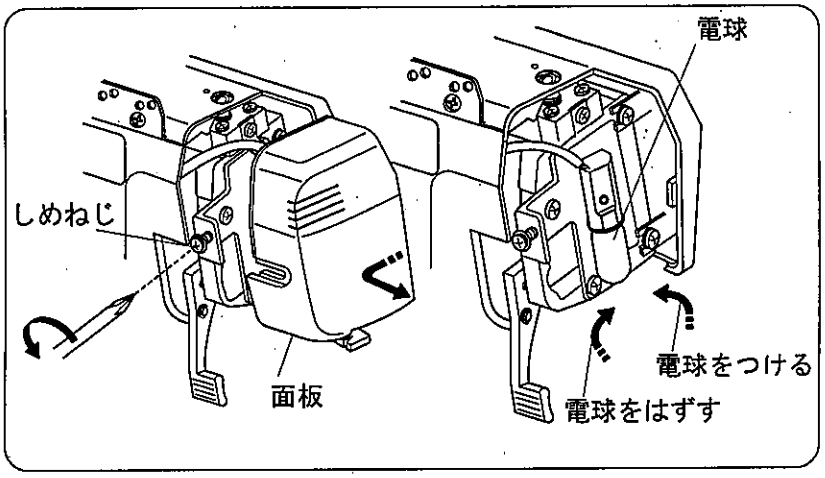
③針板しめねじをはずし、針板をはずします。



④送り歯のごみを、ブラシで落とします。

⑤針板、押さえ、針をとりつけ、ルーパーカバーと布板をしめます。

●電球のとりかえ方



⚠ 電源スイッチを切ってください。

①しめねじをゆるめ、面板をはずします。

②電球をはずすとき……左にまわします。
電球をつけるとき……右にまわします。

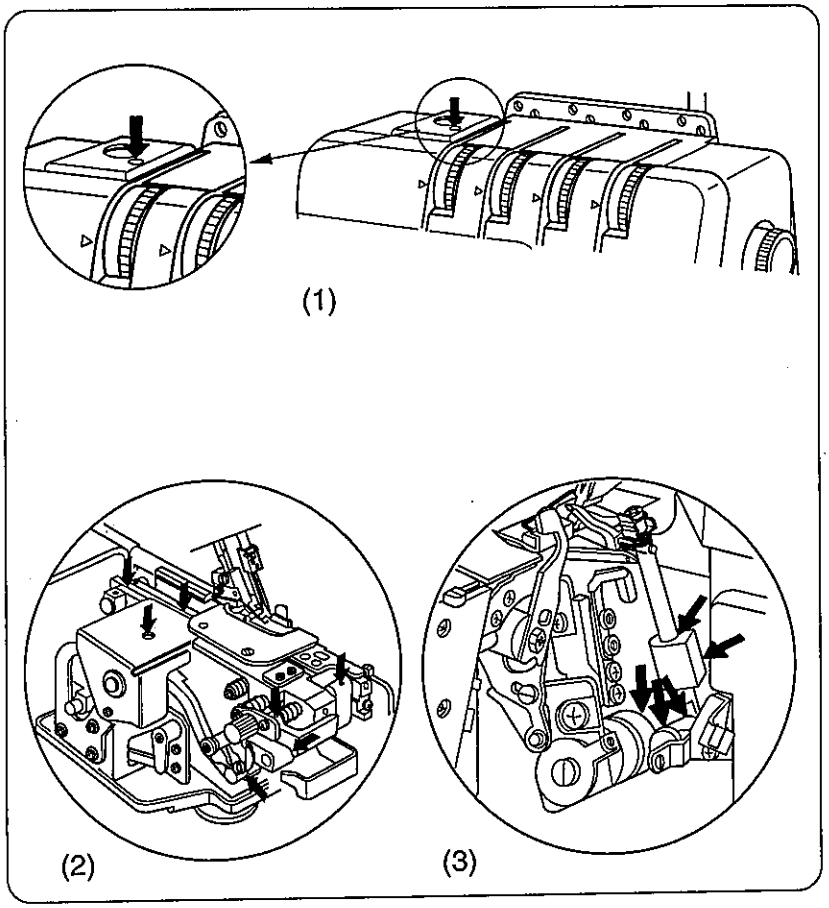
③電球をとりかえ終わったら、面板をとりつけます。

⚠ 電球をとりかえるときは、電球が冷えていることを確認してください。

⚠ 電球を外した状態でミシンを使用しないでください。

＊このミシンの電球は照明用100V−12Wを使用してください。

●注油のし方



⚠ 電源スイッチを切ってください。

矢印の箇所に良質のミシン油を1～2滴注油します。

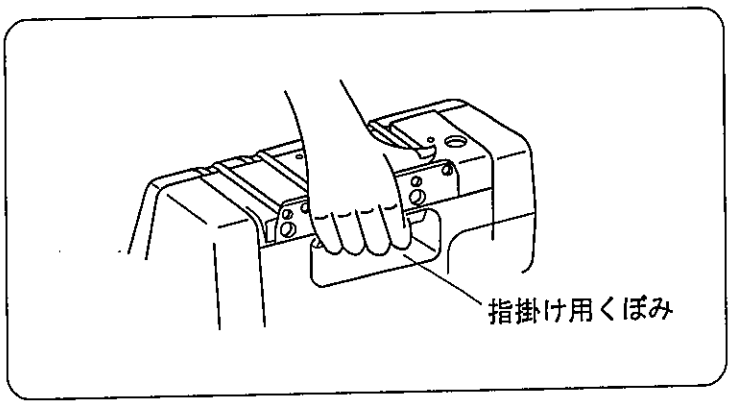
注油後、上メスを解除し、布板とルーパーカバーをしめ、押さえをあげます。電源スイッチを入れ、1～2分ほどミシンを回転させて、よく油をしみこませます。手や布がふれる所についた油はふき取ってください。
(上メスの解除方法は、11ページ参照)

＊快適にご使用いただくために、定期的な注油をしてください。
＊ミシン油は付属には含まれておりません。

⚠ ミシンを回転させるときは、必ずルーパーカバーと布板を閉めてから行ってください。

(1)天板の1ヶ所に注油します
(2)布板を開いて注油します
(3)ルーパーカバーを開いて注油します

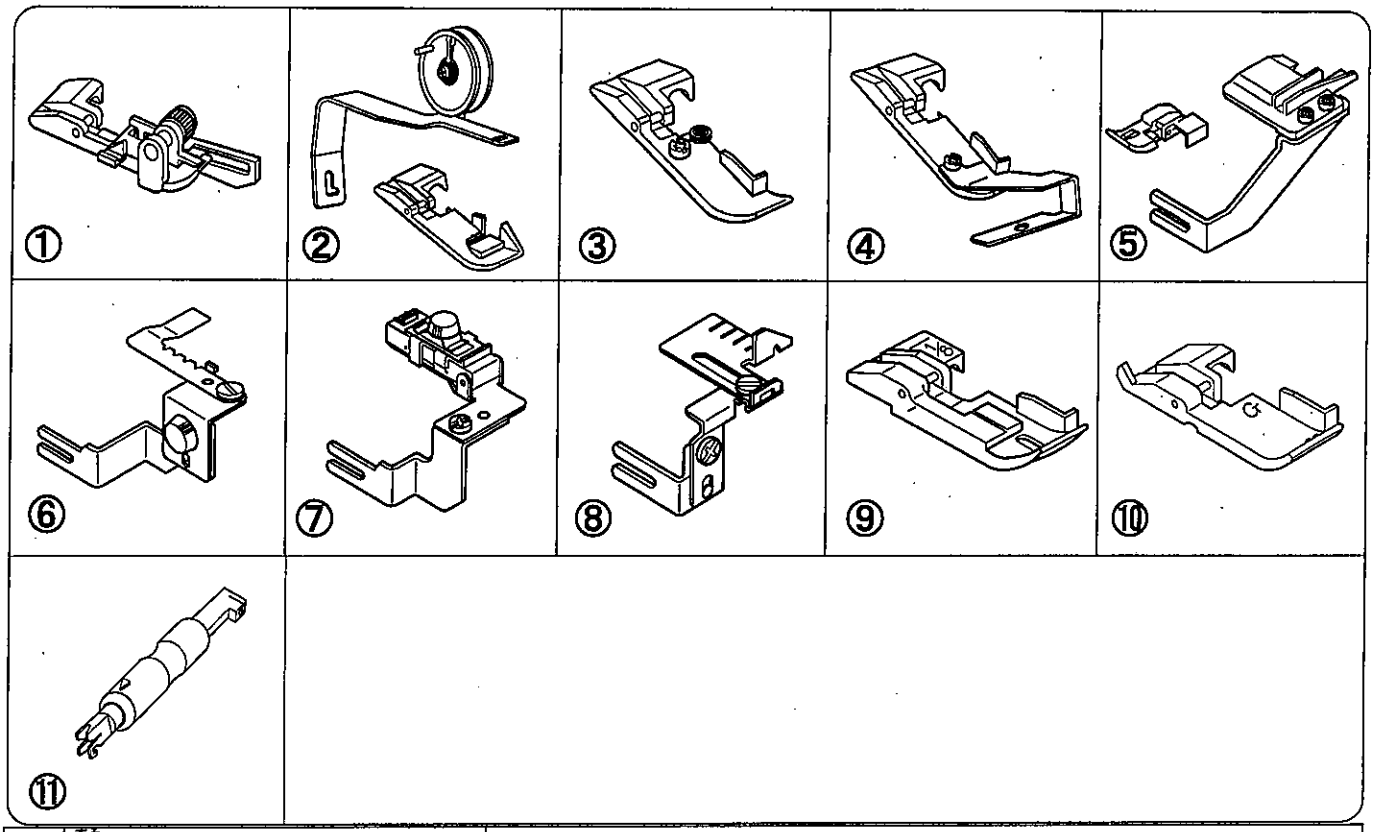
●ミシンの持ち運び方



ミシン本体裏側の上部にくぼみがありますので、図のように指をかけますと、持ち運びができます。

●別売付属品

お客様方からのご要望を反映して、特定の用途を満たし、便利で美しい仕上がりを手助けする、各種アタッチメント類を用意しておりますので、ご利用ください。



①	裾(すそ)引き押さえ NO.200236106	ズボンやスカートのすそのまつりぬいが美しくできます。
②	テープ付けセット NO.200237107	市販テープをリールに巻き取って、ニット地など伸縮性のある布地の肩線や脇ぬいの伸び止めに使用します。
③	コード付け押さえ(1) NO.200238108	飾りコード付け、フィッシュライン(てぐす)付けによる波立てフリル等に使用します。
④	コード付け押さえ(2) NO.200239109	広巾巻きぬい(芯入り)でテーブルクロスなどのふちどりに、又ニット地に毛糸等を一緒にぬうと伸び止めの効果がでます。
⑤	ビーズ付けセット NO.200240103	市販ビーズによる衣服のビーズ飾りぬい等に使用します。 使用ビーズ径は1～4mmです。
⑥	ギャザリングアタッチメント NO.200241104	袖付け、袖口、えりぐり付け等に使用します。
⑦	ゴムテープ付けアタッチメント NO.200242105	衣服のすそなどのゴムテープ付けが簡単にできます。 サイズは、3.5～8mmに使用できます。
⑧	布ガイド NO.200243106	フラットロック、ピンタックぬいなどへ多様に使用できます。 布のガイドや布の切り代のガイドに使用します。
⑨	パイピング押さえ NO.200244107(3mm用) NO.200245108(5mm用)	パイピング(バイヤステープ)材による補強や飾りぬい。 サイズは3mm(1/8″)用と、5mm(3/16″)用を別々に用意しています。
⑩	ギャザリング押さえ NO.200250106	押さえの溝でギャザーの深さがしっかり取れます。
⑪	針糸通し NO.200254708	針の取付取外しや針への糸通しが簡単にできます。

●調子がよくないときの直し方

調子がよくない状態	原　　因	直し方
布地を送らない。	① 押さえがあがっている。 ② 送り歯が糸くずでつまっている。	押さえをおろす。 39ページ参照
針が折れる。	① 針のつけ方がまちがっている。 ② 針がまがっていたり、針先がつぶれている。 ③ 布地を無理に引っぱった。	8ページ参照 8ページ参照 ぬう時は軽く引く程度にする。
糸が切れる。	① 糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている。 ② 糸調子が強すぎる。 ③ 針のつけ方がまちがっている。 ④ 針がまがっていたり、針先がつぶれている。	14～24、26ページ参照 29～32、34～37ページ参照 8ページ参照 8ページ参照
ぬい目がとぶ。	① 針のつけ方がまちがっている。 ② 針がまがっていたり、針先がつぶれている。 ③ 糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている。	8ページ参照 8ページ参照 14～24、26ページ参照
ぬい目の調子が悪い。	① 糸調子が強すぎるか、弱すぎる。 ② 糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている。 ③ 針と糸が布に対して合っていない。 ④ 糸調子皿に、糸がきちんと入っていない。	29～32、34～37ページ参照 14～24、26ページ参照 33、34、36、37ページ参照 16、18、20、22ページ参照
ぬい目がしわになる。	① 糸調子が強すぎる。 ② 糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている。 ③ 縫い目のあらさまたは縫い目の伸縮調節ダイヤルの設定がまちがっている。 ④ かがり爪位置がまちがっている。	29～32、34～37ページ参照 14～24、26ページ参照 10、33、34、36、37ページ参照 12、33、34、36、37ページ参照
ミシンがまわらない。	① コンセントにプラグがきちんとさしこまれていない。 ② 電源スイッチがOFFになっている。	5ページ参照 ONにする。
ぬい目と布のバランスが悪い。	① 切り幅の調節が合っていない。	11ページ参照

修理サービスのご案内

●お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確かめの上、大切に保存してください。

●無料修理保証期間内（お買い上げ日より一年間です）およびそれ以降の修理につきましても、お買い上げの販売店が承りますのでお申し付けください。

修理用部品の保有期間

●当社は動力伝達部品、および縫製機能部品を原則として製造打ち切り後８年間を基準として保有し、必要に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

無料修理保証期間経過後の修理サービス

●使用説明書に従って、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過した後でも、修理用部品の保有期間内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスします。
ただし、次のような場合は修理できないときがあります。

1）保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
2）浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
3）お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
4）お買い上げ店、または当社の指定した販売店以外で修理、分解、または改造したために不調、故障または損傷したとき。
5）職業用等過度なご使用により不調、故障、または損傷したとき。

●長期にわたってご使用され場合の精度の劣化は、修理によっても元通りにならないことがあります。

●有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費、およびお買い上げ店が別に定める技術料の合計になります。

	仕　　様
使用電圧	100V　50/60Hz
消費電力	100W　(ランプ100V　12W)
外径寸法	幅32.1cm　x　奥行28.4cm　x　高さ28.0cm
重　　量	7kg（本体）
使用針	家庭用　HA x 1SP（＃11、＃14）
最高ぬい速度	毎分1,300針

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

蛇の目ミシン工業株式会社

〒104-8311 東京都中央区京橋3-1-1

791-810-118